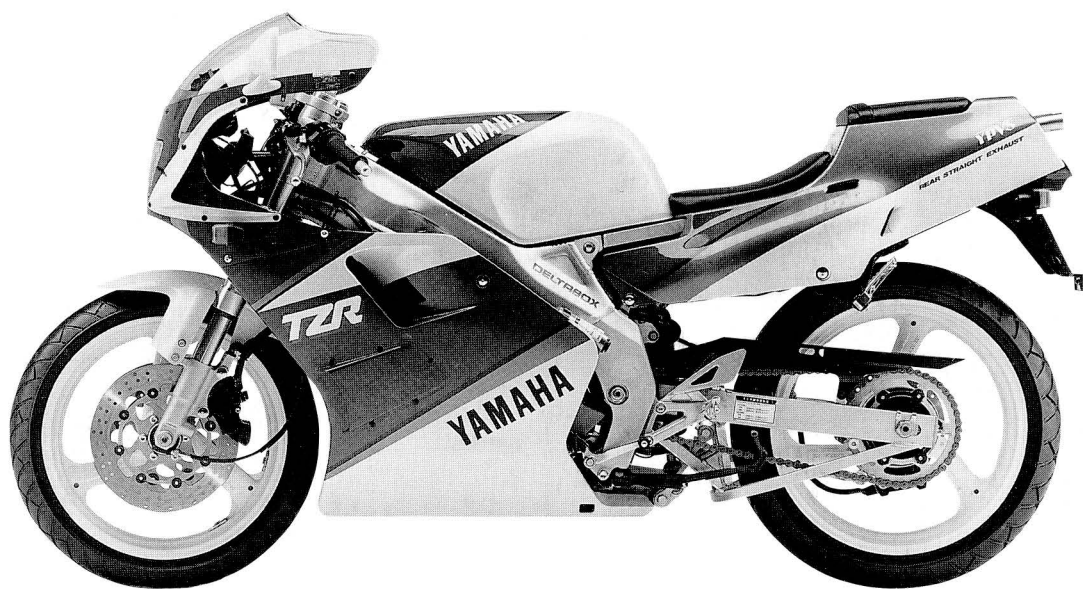


YAMAHA **SPORTS**

TZR250.SP

サービスマニキュア



3MA-28197-07

はじめに

このサービスマニュアルは、ヤマハスポーツTZR250(3MA3)、TZR250SP(3MA4)の変更箇所、仕様諸元、整備要領を記載しました。

ここに記載されていない内容については、すでに発行されていますヤマハスポーツTZR250サービスマニュアル(マニュアルNo.3MA-28197-00)を参照してください。

1990年12月

ヤマハ発動機株式会社
サービス部 資料課

- ◎本仕様は予告なく変更することがあります。
- ◎仕様変更などにより、写真や内容が一部実車と異なる場合があります。
- ◎速度警告灯装備車はメーカーオプション仕様です。

注意

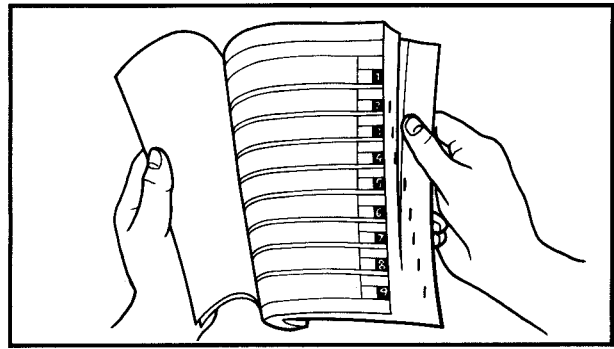
このサービスマニュアルは整備にすることからを全て記載しているわけではありません。ヤマハオートバイに関する整備上の一般知識及び技能を有する人(販売店、整備業者)を対象として作成してあります。

整備上の一般知識及び技能の無い人はこのマニュアルだけで点検、調整、分解、組立て等を行なわないでください。知識不足、技能不足等のため整備上のトラブル及び機械破損等の原因となる場合があります。

本書の使い方

記載項目の探し方

1. 本書の構成は、総説、サービスデータ、点検調整、エンジン、車体の5章に分類して編集しています。
2. 目次を巻頭にまとめました。全体の構成がどのようなになっているかを確認して、必要とする章、項目を探します。
 - 本の小口を斜めに曲げて、探そうとする章のシンボルマークに合わせて開き、ページ数で見たい項目、見たいところを探します。



記載内容の見方

1. 読む事項を少なくし、見て理解できるように写真、イラストを主体とした構成にしてあります。
2. 記載内容は機能別に章で分けしてあります。

- ①は章タイトルを表わします。
 - ②は項目を表わします。
 - ③は数値、特殊工具等を表わします。
 - ④は部品名称を取外し順又は、組付順に表わします。
3. 本書では正しい取扱いおよび点検整備に関する必要な事項を下記シンボルマークで表示しています。

注意 身体や生命に危害を及ぼすと予想される事故を未然に防ぐための必要な事項を示してあります。

注意 部品や商品に損傷を与えないための必要な事項を示してあります。

要点 正しい操作の仕方や点検整備上のポイントを示してあります。

① エンジン

② 点検調整













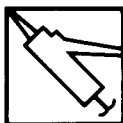
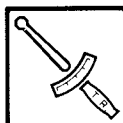

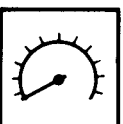
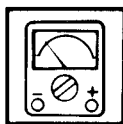










③

④

3-25

また、その他のシンボルマークの意味については次頁を参照してください。

シンボルマーク

① 総説 	② サービス データ 			
③ 点検 調整 	④ エンジン 			
⑤ 水冷 機構 	⑥ キャブレタ 			
⑦ 車体 	⑧ 電装 			
⑨ トラブル シューティング 	⑩ 			
⑪ 	⑫ 			
⑬ 	⑭ 			
⑮ 	⑯ 	⑰ 		
⑱ 	⑲ 	⑳ 	㉑ 	㉒ 
㉓ 	㉔ 	㉕ 		
㉖ 	㉗ 			

シンボルマーク

シンボルマークは下記の意味、事項を示します。

- ①総説編
- ②サービスデータ編
- ③点検、調整編
- ④エンジン編
- ⑤水冷機構編
- ⑥キャブレタ編
- ⑦車体編
- ⑧電装編
- ⑨トラブルシューティング編
- ⑩エンジン車載整備ができる。
- ⑪特殊工具
- ⑫オイル量
- ⑬グリースの種類
- ⑭締付トルク
- ⑮標準値及び使用限度
- ⑯エンジン回転数
- ⑰Ω、V、Aの規定値
- ⑱ヤマハオートループスーパーオイル
- ⑲ヤマハギヤオイル
- ⑳ヤマハ4サイクルオイル
- ㉑ヤマハ4サイクルオイルFX
- ㉒二硫化モリブデンオイル
- ㉓ヤマハグリースB
- ㉔ヤマハグリースE
- ㉕ヤマハ二硫化モリブデングリース
- ㉖ネジロック
- ㉗組付時新品と交換する部品

目次

§ 1 総説編



総説

1

§ 2 サービスデータ編



サービス
データ

2

§ 3 点検・調整編



点検・調整

3

§ 4 エンジン編



エンジン

4

§ 5 車体編



車体

5

目 次

第1章 総説編

外観写真、車台番号打刻位置、原動機型式打刻位置、型式認定番号標取付位置	P1-1
外観四面図	P1-2
性能曲線図	P1-3
特殊工具・機器	P1-4

第2章 サービスデータ編

主要データ	P2-1
仕様諸元	P2-2
ケーブル、ワイヤ、パイプ通し図	P2-7
電装配線図	P2-11

第3章 点検・調整編

点検整備方式	P3-1
車体	P3-3
フロントフォーク初期スプリングの調整	P3-3
フロントフォーク減衰力の調整〔TZR250SPのみ〕	P3-3

第4章 エンジン編

クラッチ〔TZR250SPのみ〕	P4-1
構成部品	P4-1
クラッチの取外し	P4-2
クラッチの点検	P4-3

第5章 車体編

フロントフォーク	P5-1
構成部品	P5-1
フロントフォークの取外し	P5-2
フロントフォークの分解	P5-3
フロントフォークの点検	P5-5
フロントフォークの組立て	P5-6
フロントフォークの組付け	P5-11



総説

1



サービス
データ

2



点検・調整

3



エンジン

4

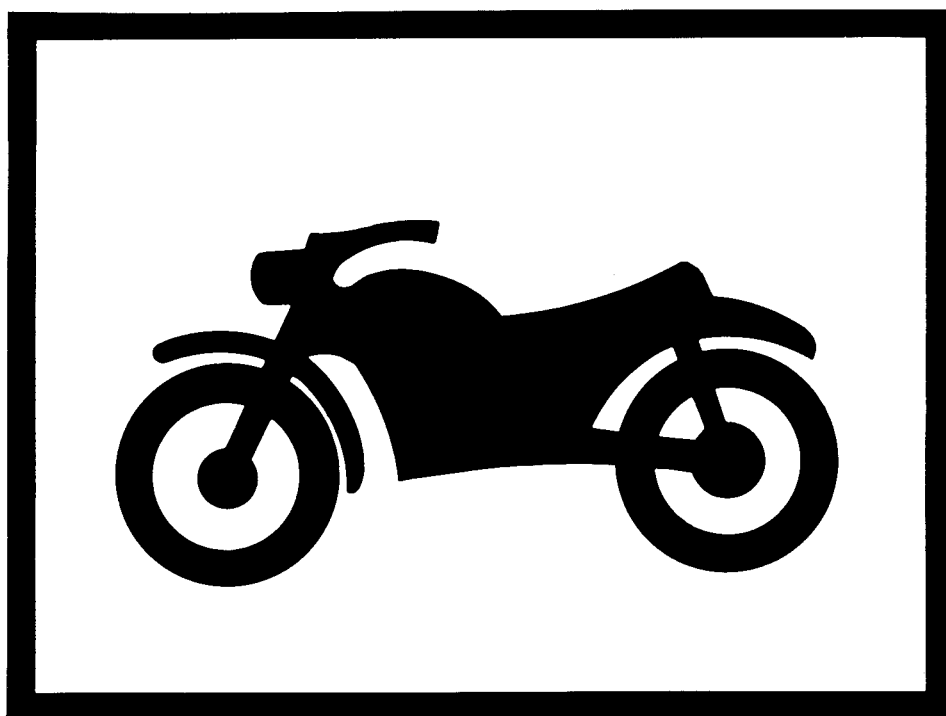


車体

5

第1章

総説編



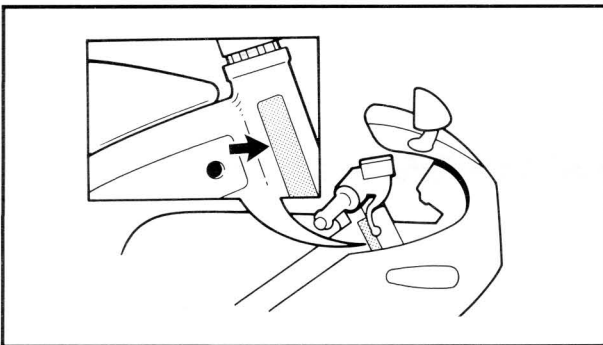


外観写真

1



車台番号打刻位置



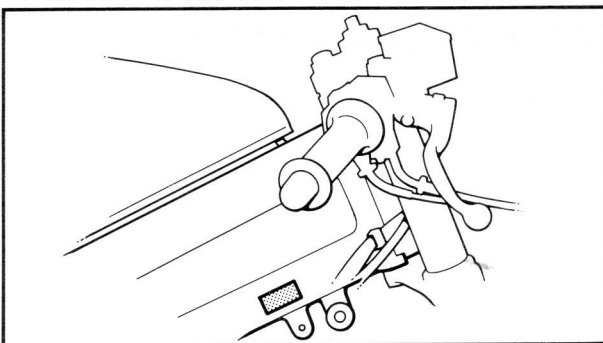
[]はTZR250SP

営業呼称	TZR250 [TZR250SP]
通称名	TZR250 [TZR250SP]
車名・型式	ヤマハ・3MA
工場呼称	TZR250DJ0 [TZR250DJRO]
機種コード	3MA3 [3MA4]
認定番号	II-159
原動機型式	3MA
車台打刻開始番号	3MA-046101 [3MA-055101~]
全長	2040mm
全幅	695mm
全高	1100mm
総排気量	249cm ³ (c.c.)
車両重量	159kg [161kg]
カラーリング	ライトシアンソリッド フェザーブラック シルキーホワイト/パッションレッド [シルキーホワイト/ファインレッド]

エンジン型式打刻位置



認定番号添付位置



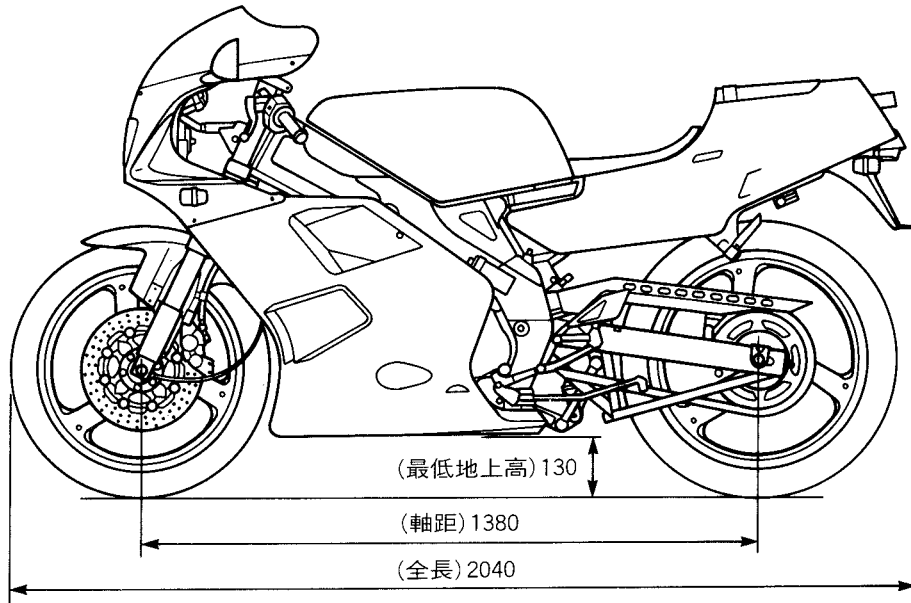


外観四面図

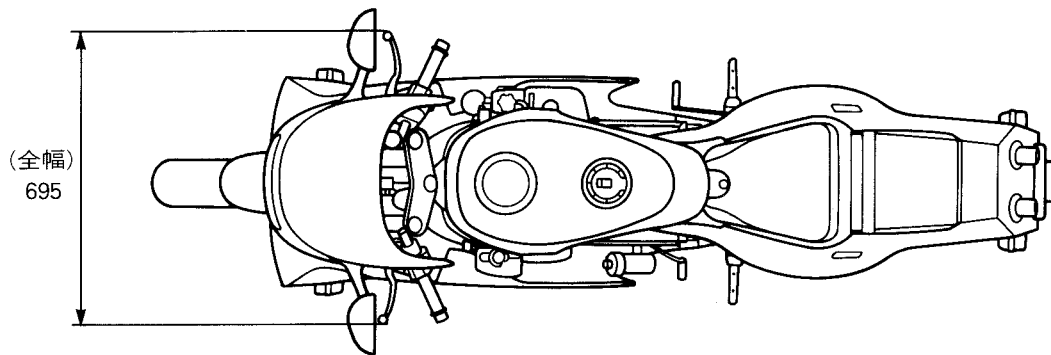
単位mm

[]はTZR250SP

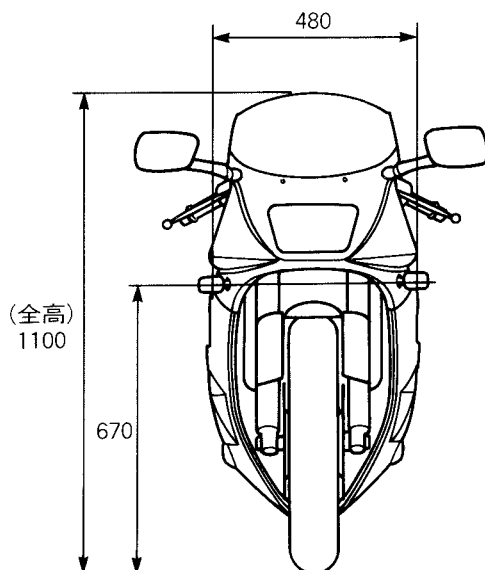
側面図



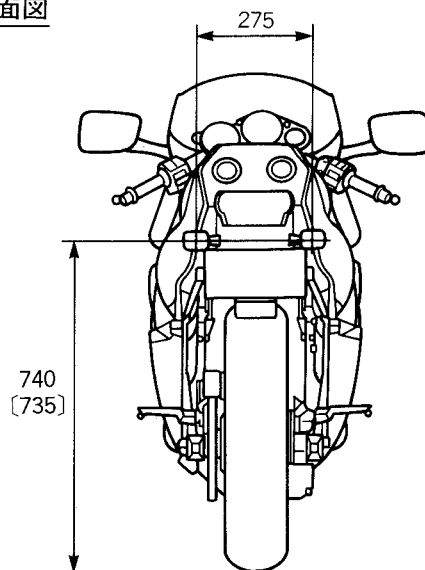
上面図



前面図



後面図



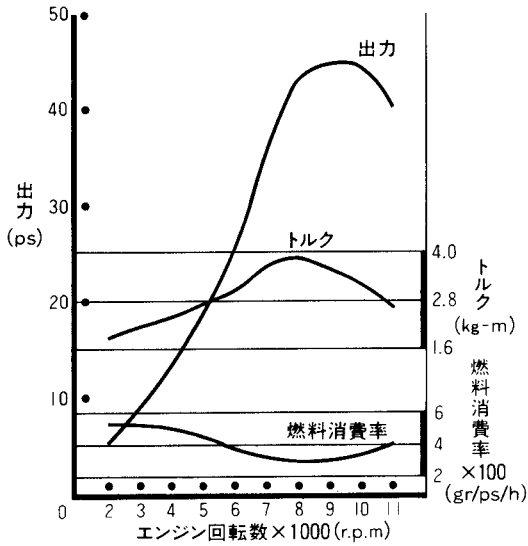
1



性能曲線図

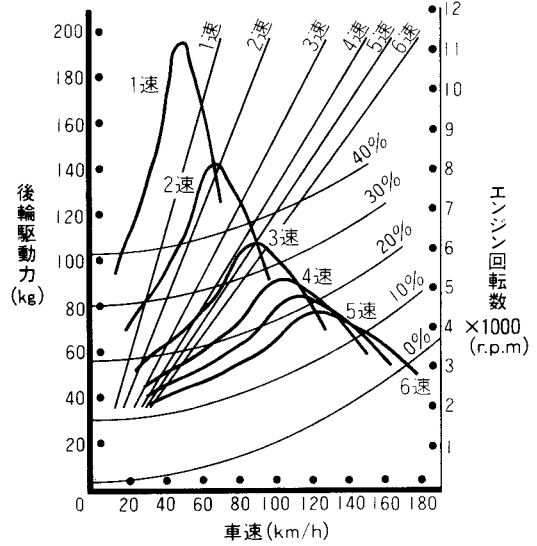
[TZR250]

エンジン性能曲線図



最高出力：45PS/9500rpm
最大トルク：3.8kg・m /8000rpm

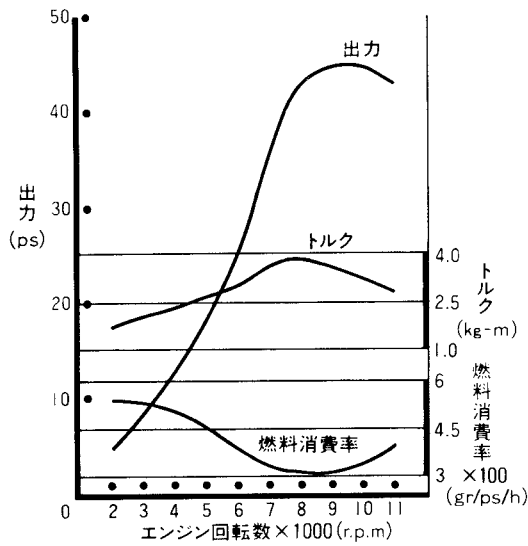
走行性能曲線図



1次減速比：61 / 25 : 2.440 タイヤサイズ
2次減速比：43 / 14 : 3.071 フロント：110 / 70 R17 54H
変速機変速比 リ ヤ：140 / 60 R18 64H
1速：34 / 14 : 2.428
2速：30 / 17 : 1.764
3速：24 / 18 : 1.333
4速：25 / 22 : 1.136
5速：24 / 24 : 1.043
6速：20 / 22 : 0.958

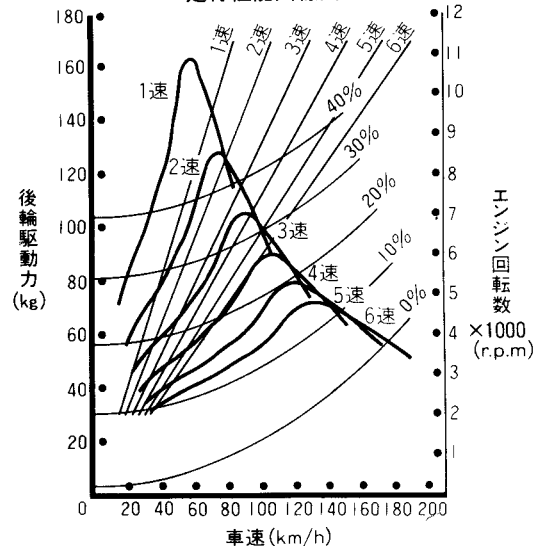
[TZR250SP]

エンジン性能曲線図

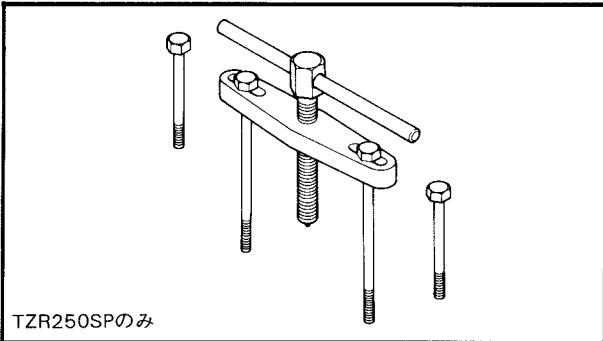


最高出力：45PS/9500rpm
最大トルク：3.8kg・m /8000rpm

走行性能曲線図

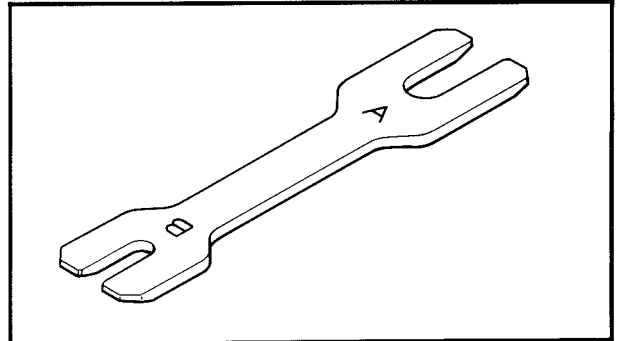


1次減速比：61 / 25 : 2.440 タイヤサイズ
2次減速比：43 / 14 : 3.071 フロント：110 / 70 R17 54H
変速機変速比 リ ヤ：150 / 60 R18 67H
1速：29 / 14 : 2.071
2速：26 / 16 : 1.625
3速：24 / 18 : 1.333
4速：25 / 22 : 1.136
5速：24 / 24 : 1.000
6速：20 / 22 : 0.909

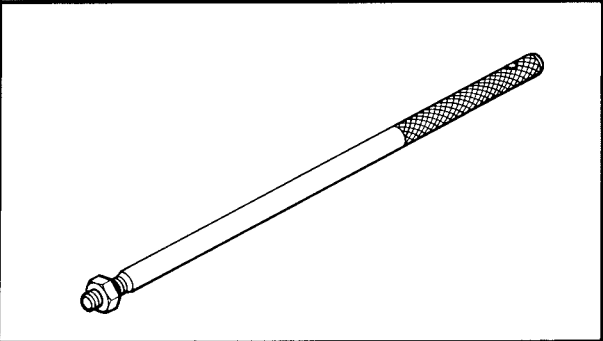


TZR250SPのみ

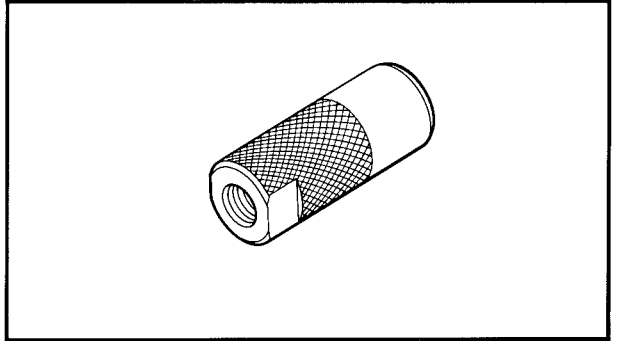
クランクケースセパレーティングツール 90890-01135



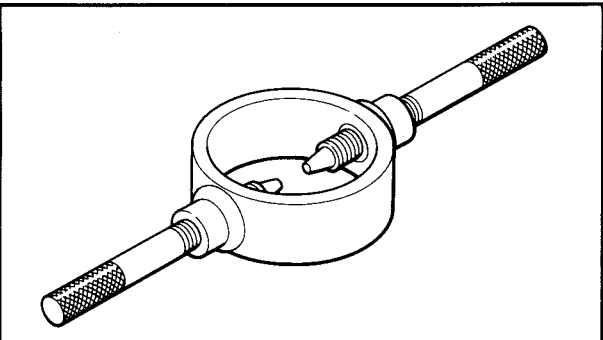
ロッドホルダ 90890-01434



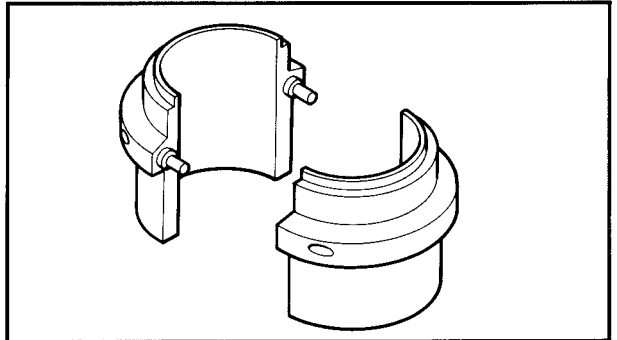
ロッドプーラ 90890-01437



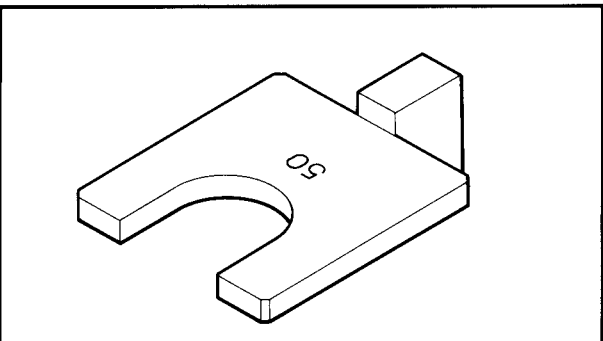
ロッドプーラアタッチメントM10 90890-01436



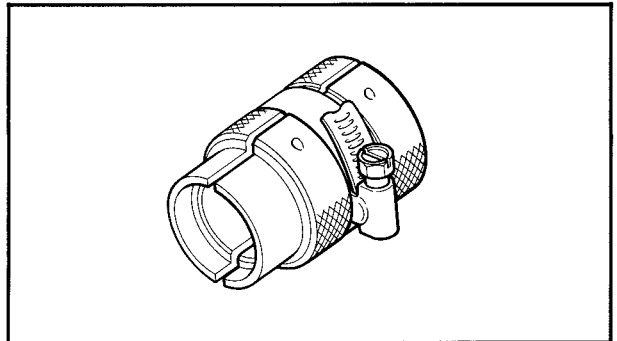
フォークスプリングコンプレッサ 90890-01441



フォークシールドライバアタッチメント 90890-01440



フォークホルダ 90890-01439



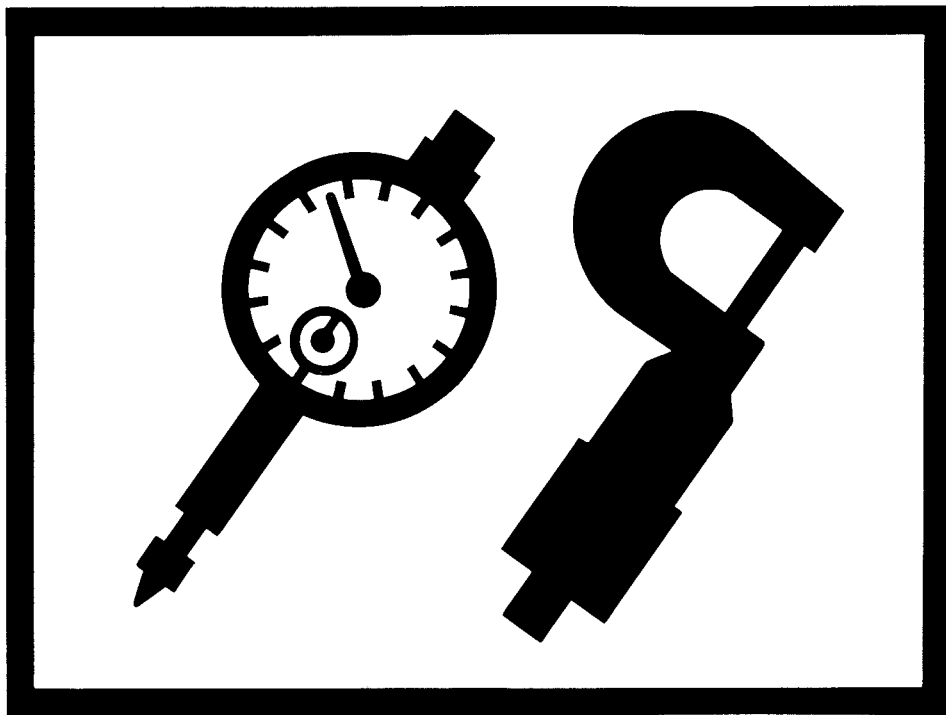
オイルシールドライバ 90890-01424

1



第2章

サービスデータ編



主要データ

このデータは、日常の点検、調整等で使用頻度の高いものを抽出しました。

このデータ以外は本文中のデータまたは仕様諸元を参照ください。

[]はTZR250SP

ミッションオイル量	
通常交換時	900cm ³
オーバーホール時	950cm ³

オートループポンプ	
合わせマーク	全開時プーリー切欠き部 ^① マーク

冷却水量	
全容量	1.63ℓ [1.82ℓ]
ラジエタ/エンジン容量	1.3ℓ [1.49ℓ]

フュエルタンク容量	
全容量	16ℓ
予備容量	約3ℓ

キャブレタ		
型式	TM30SS [TM34SS]	
ボア	φ30 [φ34]	
メインジェット	#210 [#260]	
ジェットニードル	6ZL10	
クリップ段数	3 / 5	
H寸法	18.9~20.9mm	
フュエルレベル	5~7mm	
アイドリング回転数	1300rpm	

フロントブレーキ	
ブレーキレバーの遊び	2~5mm
ディスクの厚さ	5.0mm

リヤブレーキ	
ブレーキペダル取付高さ	50mm
ディスクの厚さ	5.0mm

フロントフォーク	
オイル量	326cm ³ [329cm ³]
オイルレベル	190mm [180mm]
フォークスプリング自由長	301.9mm [318.9mm]

ドライブチェン	
たわみ量	30~40mm
サイズ	DID520V2
駒数	112

クラッチ	
クラッチレバーの遊び	10~15mm

1次減速歯数・比		
歯数	61 / 25	
減速比	2.440	

2次減速歯数・比		
歯数	43 / 14	
減速比	3.071	

タイヤ空気圧		
1名乗車	前	2.00kg / cm ²
	後	2.25kg / cm ²
2名乗車	前	2.00kg / cm ²
	後	2.50kg / cm ²
高速走行(1名)	前	2.00kg / cm ²
	後	2.50kg / cm ²

タイヤサイズ	
前	110/70 R17 54H
後	140/60 R18 64H [150/60 R18 67H]

バッテリー		
型式	YT4L-BS	
容量	12V3Ah	

スパークプラグ		
型式	BR8ES, BR9ES, BR10EV	
プラグギャップ	0.7~0.8mm	

イグニッションコイル抵抗値	
1次コイル	0.41~0.55Ω
2次コイル	0.96~1.44Ω

C.D.Iマグネット	
ピックアップコイル	(白/緑-白/黒)
抵抗値	184~276Ω
ステータコイル抵抗値	(白-白)0.32~0.48Ω
充電電圧値	14.3~15.3V/3000rpm

灯火	
ヘッドランプ	12V60/55W (ハロゲン)
ストップ/テールランプ	12V21 / 5W × 2
フラッシュランプ	12V10W × 4

ヒューズ	
メイン	20A

2



仕様諸元

[]はTZR250SP

営業呼称	TZR250 [TZR250SP]	
車名・型式	ヤマハ・3MA	
車種コード番号	3MA3[3MA4]	
認定番号	II-159	
車台打刻開始番号	3MA-046101~ [3MA-055101~]	
原動機打刻型式	3MA	
発売年・月	1990年2月	
寸法	全長	2040mm
	全巾	695mm
	全高	1100mm
	シート高	760mm
法	軸間距離	1380mm
	最低地上高	130mm
	乾燥重量	138kg [139kg]
重	車両重量	159kg [161kg]
	前輪分布	79kg [80kg]
	後輪分布	80kg [81kg]
	車輛総重量	269kg [271kg]
量	前輪分布	101kg [102kg]
	後輪分布	168kg [169kg]
乗車定員	2名	
性能	定地燃費	40km/ℓ (50km/h) [41km/ℓ (50km/h)]
	登坂能力	$\theta = 31^\circ$
	最小回転半径	3100mm
原動機	制動停止距離	14m (50km/h)
	原動機種類	2サイクル、水冷
機	気筒数配列	並列2気筒横置
	総排気量	249cm ³
	内径×行程	56.0mm×50.7mm
	圧縮比	7.4[8.0]
	圧縮圧力	7.0kg/cm ² -700rpm
	最高出力	45PS/9500rpm
	最大トルク	3.8kg・m/8000rpm
	エアリーナ形式	湿式ウレタンフォーム
クラッチ形式	乾式多板	

原動機	ミッションチェンジ方式	常時噛合式前進6段	
	始動方式	キック式	
	点火方式	C.D.I点火	
	潤滑方式	ヤマハオートループ	
車体	フレーム型式	アルミデルタボックス	
	キャスト	25°00'	
	トレール	94mm	
	ハンドル切れ角	左右各30°	
	燃料タンク容量	16ℓ (予備3ℓ)	
	オイルタンク容量	1.4ℓ	
	ブレーキ形式	前	油圧式ディスクブレーキ
		後	油圧式ディスクブレーキ
	懸架方式	前	テレスコピック
		後	スイングアーム
緩衝方式	前	オイルダンパ+ エア、コイルスプリング	
	後	ガス、オイルダンパ+ コイルスプリング	
タイヤサイズ	前	110/70 R17 54H	
	後	140/60 R18 64H [150/60 R18 67H]	
指定タイヤ	前	ダンロップK610F[GPR10F] ブリヂストンCY15	
	後	ダンロップK610F[GPR10] ブリヂストンCY16	
構造	組立式		
大端部軸受種類	ニードルベアリング		
クランクシャフト	クランクシャフト組立標準値		
ピストン	ピストンクリアランス	0.045~0.050mm	

定地燃費(運輸省届出値)は定められた試験条件のもとでの値です。
従って走行時の気象、道路、車両、整備などの諸条件によって異なります。

2



仕様諸元

2

ピストン	ピストンピン孔	標準値	16.004~16.015mm		
	内径	使用限度	16.035mm		
	組付方向	矢印排気側			
ピストン	ピストンピン	標準値	15.995~16.000mm		
	外径	使用限度	15.975mm		
ピストンリング	形状	TOP	キーストン		
		2nd	プレーン (エキスパンダ入)		
	合口隙間	TOP	0.30~0.45mm		
		2nd	0.30~0.45mm		
	サイドクリアランス	TOP	0.02~0.06mm		
		2nd	0.035~0.070mm		
		使用限度	0.10mm		
シリンダヘッド	シリンダヘッド歪み限度	0.03mm			
	シリンダ歪み限度	0.03mm			
原動機	吸気	開き	自動管制式		
		閉じ	自動管制式		
	排気	開き	A.T.D.C.84~101° (A.T.D.C.82~99°)		
		閉じ	B.T.D.C.84~101° (B.T.D.C.82~99°)		
	掃気	開き	A.T.D.C.117° (A.T.D.C.116°)		
		閉じ	B.T.D.C.117° (B.T.D.C.116°)		
クラッチ	クラッチプレート×フリクションプレート		6×7(4×5)		
	クラッチプレート	標準厚さ	1.5~1.7mm (1.9~2.1mm)		
		歪み限度	0.05mm		
	フリクションプレート	標準厚さ	2.9~3.1mm (2.9~3.1mm)	3.4~3.6mm	
		使用限度	2.8mm	3.3mm	
	クラッチスプリング	自由長	40.1mm (32.6mm)		
		使用限度	38.1mm (30.6mm)		
数量		5〔6〕			
減速比	1次減速	歯数	61 / 25		
		比	2.440		
	変速歯数・比	1速	34/14(29/14)	2.428 (2.071)	
		2速	30/17(26/16)	1.764 (1.625)	
		3速	24/18	1.333	
4速		25/22	1.136		

減速比	変速歯数・比	5速	24/23(24/24)	1.043 (1.000)
		6速	23/24(20/22)	0.958 (0.909)
	2次減速	歯数	43 / 14	
比		3.071		
ドライブチェーン	型式	DID520V2		
	メーカー	大同工業		
	駒数	112L		
	たわみ量	30~40mm		
ミオツシヨール	指定オイル	ヤマハギヤオイル		
	オイル量	定期交換	900cm ³	
		オーバーホール	950cm ³	
リバルブ	リードバルブとシートのすき間限度	1.0mm		
	ストップパの高さ	9.6mm		
オルボトランプ	指定オイル	ヤマハオートループスーパーオイル		
キヤブレタ	型式	TM30SS〔TM34SS〕		
	刻印	3MA3-10 (3MA4-20)		
	ベンチュリ口径	φ30(φ34)		
	メインジェット	#210〔#260〕		
	メインエアジェット	MJ1 #120 (MJ1 #120) 2 #100 (2 #120) 3 #195 (3 #175)		
	ジェットニードル	6ZL10		
	クリップ段数	3 / 5		
	エアスクリュ戻し回数	1½〔2〕		
	パイロットジェット	#15〔#17.5〕		
	パイロットエアジェット	1.4		
	ニードルジェット	Q-4		
	スタータジェット	#35		
	フュエルレベル	5~7mm		
	H寸法	18.9~20.9mm		
スロットルケーブル	スロットルケーブルの遊び (スロットルグリップ外部部)	4~6mm		
	トロコイドポンプ	ロータハウジング端面とロータ端面のすき間	標準値	0.03~0.15mm
			使用限度	0.18mm
		アウトロータとロータハウジングのすき間	標準値	0.10~0.15mm
		使用限度	0.17mm	

仕様諸元



トポ ロ コ ン ド ブ	インナロータと アウトロータの すき間	標準値	0.04~0.09mm
		使用限度	0.12mm
	ロータの厚さ	標準値	7.98~8.00mm
ラ ジ エ タ	型 式	コルゲートフィン型	
	幅	325mm[340mm]	
	高 さ	217.4mm[218mm]	
	厚 さ	16mm[24mm]	
エ ン ジ ン	耐 圧	1.8kg / cm ²	
	ラジエタキャップ開弁圧	0.75~1.05kg / cm ²	
	冷却水総容量	1.63ℓ[1.82ℓ]	
	ラジエタ / エンジン容量	1.3ℓ[1.49ℓ]	
サ ー モ ス タ ツ ト	リカバリタンク注入量	0.33ℓ	
	型 式	47X	
	メ ー カ	日本サーモスタット	
	バルブ開き始め温度	63~67°C	
	バルブ全開温度	80°C	
	全開バルブリフト量	7mm以上	
サ ユ ニ ツ ト	型 式	2YK	
	メ ー カ	日本精機	
水 温 計	型 式	可動磁石式	
	メ ー カ	日本精機	
	コイル抵抗値	(50°C 156Ω) → (115°C 18.2Ω)	
オ イ ル レ ベ ル	型 式	3 MA	
	メ ー カ	太平洋アスティー	
フ ロ ン ト フ ォ ー ク	ホイールトラベル	125mm	
	オイル量	326cm ³ [329cm ³]	
	オイルレベル	190mm[180mm]	
	指定オイル	ヤマハサスペンション オイルG10	
	インナチューブ径	φ 39	
		スプリング	自由長
使用限度	297mm[314mm]		
ミ テ ア ッ ク	上下 種 類	テーパローラ ベアリング	
フ ロ ン ト ホ イ ール	ホイールアクスルの曲り限度	0.25mm	
	リムの振れ限度	2mm	
	リムサイズ	J17×MT3.00	

フ ロ ン ト ホ イ ール	フ ロ ン ト ブ レ ー キ	ブレーキレバー先端部遊び		2~5mm	
		ディスクの振れ限度		0.5mm	
		ディ ス ク の 厚 さ	標準値	5.0mm	
			使用限度	4.5mm	
		パ ッド の 厚 さ	標準値	5.5mm	
			使用限度	0.5mm(インジケータ有)	
指定ブレーキフルード		ヤマハブレーキフルード DOT4			
リ ヤ ホ イ ール	ホイールアクスルの曲り限度		0.25mm		
	リムの振れ限度		2mm		
	リムサイズ		J18×MT4.00 (J18×MT4.50)		
	ブ レ ー キ リ ペ ダル	取付高さ	50mm		
		遊 び	無調整式		
	ディ ス ク の 厚 さ	ディスクの振れ限度	0.5mm		
標準値		5.0mm			
		使用限度	4.5mm		
パ ッド の 厚 さ		標準値	5.5mm		
	使用限度	0.5mm(インジケータ有)			
指定ブレーキフルード		ヤマハブレーキフルード DOT4			
リ ヤ ン シ ョ ン	ホイールトラベル		120mm		
タ イ ヤ	空 気 圧	1名乗車	前	2.00kg / cm ²	
			後	2.25kg / cm ²	
	2名乗車	前	2.00kg / cm ²		
		後	2.50kg / cm ²		
	高 速 走 行 (1名乗車)	前	2.00kg / cm ²		
		後	2.50kg / cm ²		
残溝使用限度		一 般	0.8mm		
		高 速	1.6mm		
バ ッ テ リ	型 式	YT4L-BS			
	メ ー カ	日本電池			
	容 量	12V 3 Ah			
	充 電 電 流	標準	0.9A × 5時間		
	急速	4.0A × 1時間			
電 解 液	量	約180cc.			
	比 重	1.32(20°C)			
C ・ D ・ i	型 式	TLKZ13			
	メ ー カ	日本電装			

2



2

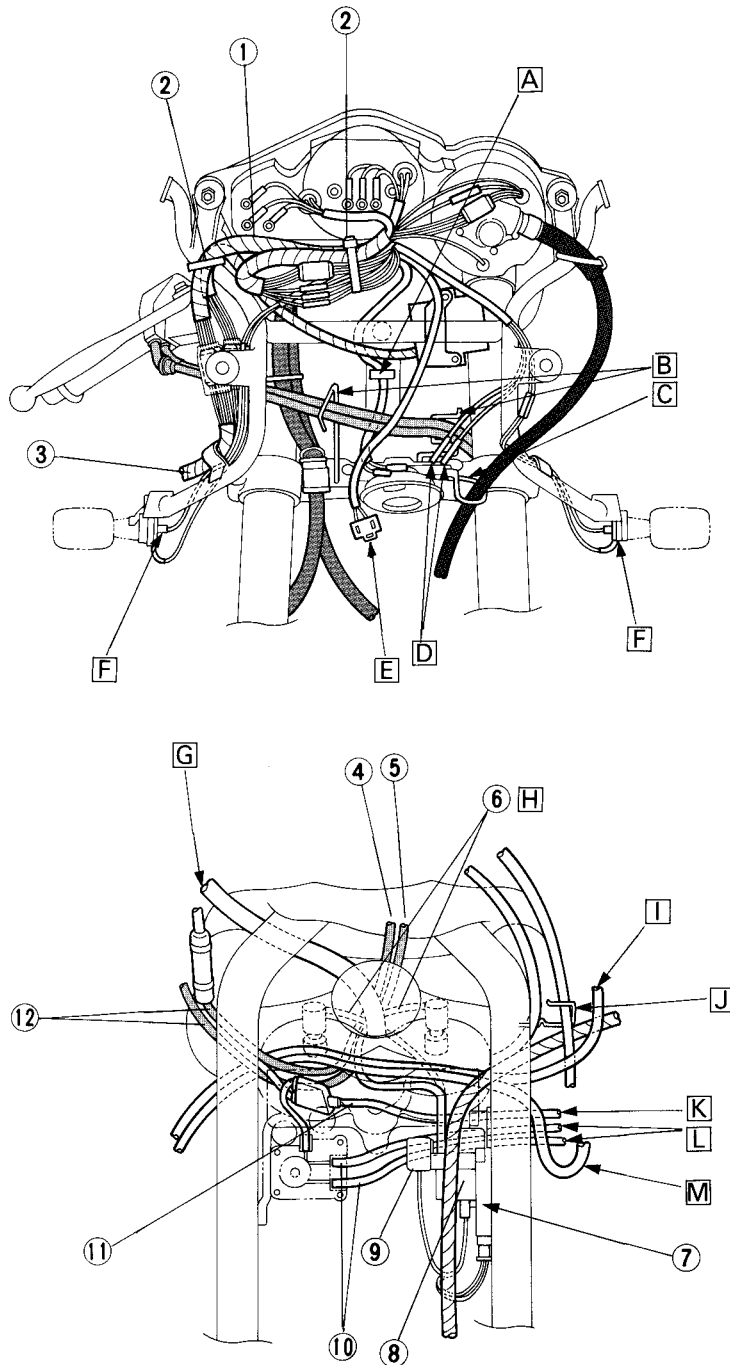
C・D・マ グネット	発電機種類	交流発電機		
	ピックアップコイル抵抗値	184~276Ω (白/緑-白/黒)		
	ステータコイル抵抗値	0.32~0.48Ω (白-白)		
	充電電圧値	14.3~15.3V/3000rpm		
C・D・ユ ニット	型式	QAC09		
	メーカー	日本電装		
サモ ータ	型式	2XT		
	メーカー	ヤマハ		
ユ ニット コ ン ト ロ ー ル	型式	QCA08		
	メーカー	日本電装		
タイ ミン グ 火 点	点火時期	B.T.D.C21/1200rpm		
	進角方式	電気式		
イ グ ニ ッ シ ョ ン コ イ ル	型式	3MA-10		
	メーカー	日本電装		
	火花性能	6mm以上		
	コイル抵抗値	一次	0.41~0.55Ω	
二次		0.96~1.44KΩ		
ス パ ー ブ ラ ク グ	型式	BR8ES, BR9ES, BR10EV		
	メーカー	N.G.K		
	プラグギャップ	0.7~0.8mm		
レ ギ ュ レ ア イ ヤ フ ア イ ヤ	型式	SH569		
	メーカー	新電元工業		
	調整電圧	14.3~15.3V		
ホ ー ン	型式	GF-12		
	メーカー	ニッコー金属		
	性能	95~105dB/2m		
	巻線抵抗	4.4~4.78Ω		
	電流	1.5A以下		
フ ラ ッ シャ リ レ ー	型式	FZ710		
	メーカー	日本電装		
	点滅回数	85±10回/分		
	フラッシュリレータイプ	コンデンサ式		
信 号 照 明	ヘッドランプ	12V60/55W (ハロゲン)		
信 号 ・ 照 明	ストップ/テールランプ	12V21/5W×2		
	フラッシュランプ	12V10W×4		
	メータランプ	12V3.4W×4		
	パ イ ロ ッ ト ラ ン プ	フラッシュ	12V3.4W	
		オイル残量警告	12V3.4W	
		ハイビーム	12V3.4W	
ニュートラル	12V3.4W			
ヒ ュ ズ	メイン	20A		
ベ ア リ ン グ	クランクシャフト	左、右	83464A1SH2-9TCS36	
		中	83406E1SH2-9TCS36	
	メインアックスル	左	NK20×33×15N-1	
		右	5205	
	ドライブアックスル	左	83427	
		右	20NQ3212	
	シフト	右	HKS36×42×12-1	
	フロントホイール	左	6203	
		右	6203	
	リヤホイール	左	6004RS	
右		6204		
クラッチハブ	6205ZRS			
オ イ ル シ ー ル	クランクシャフト	左	FWJ25-40-10GS	
		右、中	FWJ35-62-7ZS	
	ウォータポンプ	FLJ12-31-13.5 GS		
	クラッチ (プッシュアックスル)	SD15-25-5		
	ドライブアックスル (補修用)	SD-35-52-8HS		
		SD7 35-52-8 VS (+サークリップ)		
	シフトシャフト	SD-12-22-5HS		
	キックアックスル	SD-20-30-6		
	Y.P.V.S (シリンダ)	XMH15 23 5-6.4J-D		
	フロントホイール	SD-23-40-7		
メ ー タ ギ ヤ 部	(SDD)			
	MHS 2A 45-56-6			
	リヤホイール	SD-28-47-7		
クラッチハブ	SD-32-52-7			



ケーブル、ワイヤ、パイプ通し図

ケーブル、ワイヤ、パイプ通し図

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ① サブコード ② インシュロックバンド ③ ワイヤハーネス ④ キャブレタ引き側(スロットルケーブル) ⑤ キャブレタ戻し側(スロットルケーブル) ⑥ ハイテンションコード ⑦ レクチファイヤレギュレタ ⑧ イグニッションコイル ⑨ フラッシュリレー ⑩ Y.P.V.Sコントロールケーブル ⑪ ポンプケーブル ⑫ スロットルケーブル | <ul style="list-style-type: none"> A ホーンリード線をステアのクランプを通してクランプは曲げること。 B スロットルケーブルはホーンステアのガイドを通す。 C スピードメータケーブルはホーンステアのガイドを通す。 D マーカランプへ。 E ヘッドライトへ。 F フロントフラッシュャと共締め、下側よりコードが出るように締めること。 G スロットルグリップへ。 H ハイテンションコードの長い方を右気筒、前方でクロスさせること。スロットルケーブルの上を通す。 I リカバリホース：サイレンサの後を通す。 J クラッチケーブルはワイヤガイドの外側部分を通す。 K オイルポンプへ。 L シリンダのY.P.V.Sプーリへ。 M オイルタンクのブリーザパイプはサイレンサの後を通す。 |
|---|--|



2



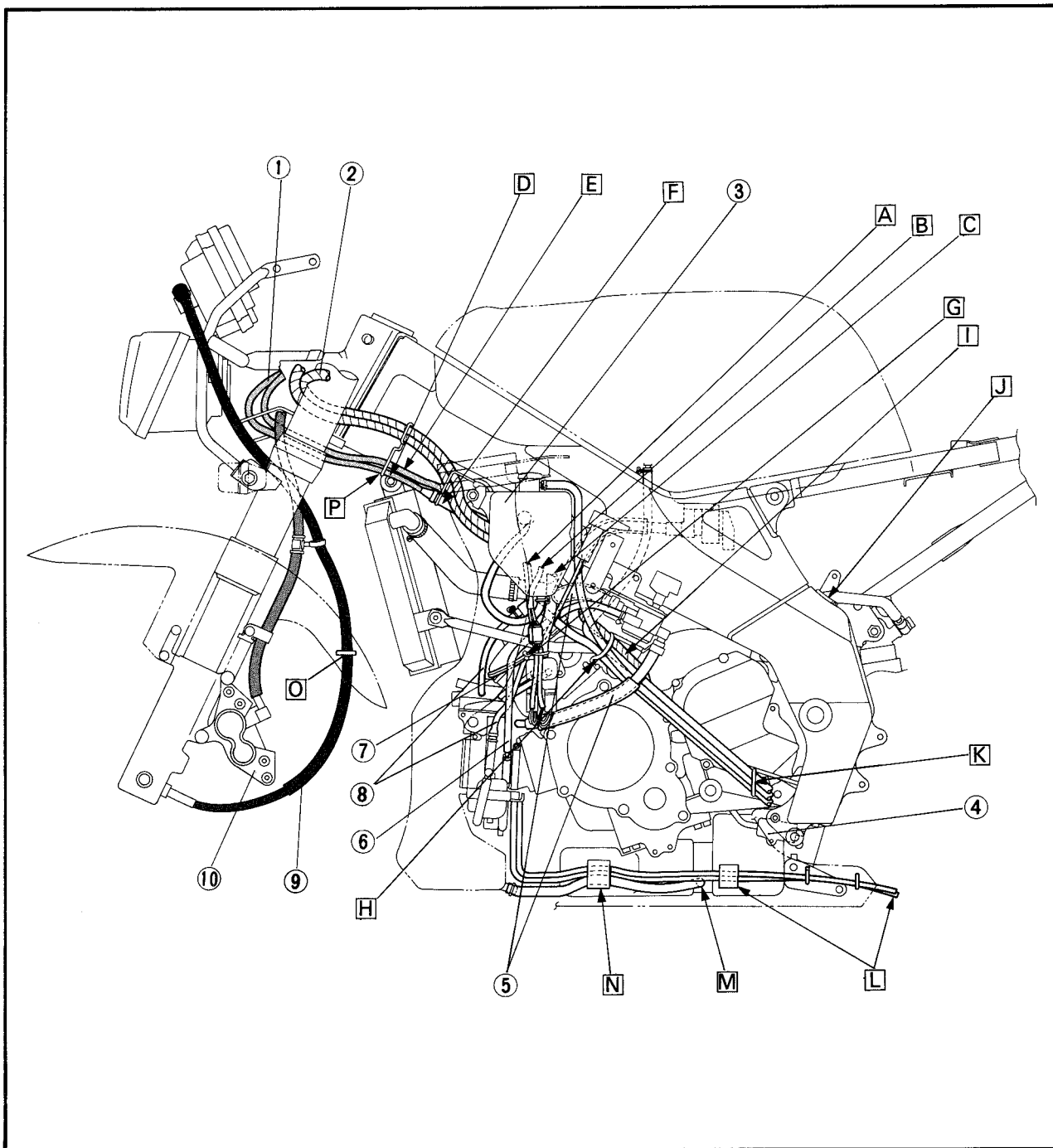
ケーブル、ワイヤ、パイプ通し図

- ① スロットルケーブル
- ② ハンドルスイッチリード線
- ③ リカバリタンク
- ④ サイドスタンドスイッチ
- ⑤ フューエルホース
- ⑥ 負圧ホース
- ⑦ スタータケーブル
- ⑧ 温水ホース
- ⑨ スピードメータケーブル
- ⑩ フロントブレーキキャリパ左
- A オイルタンクへ。
- B ワイヤハーネスへ。
- C ミニエアクリーナへ。
- D オイルリンクシリンダへ。
- E キャブレタ引き側へ。
- F キャブレタ戻し側へ。

- G コンベンセータリード線をクランプでミニエアクリーナホースに固定する。
- H フューエルタンクドレンパイプ、オイルタンクブリーザパイプ、リカバリタンクブリーザパイプ、C.D.Iマグネトリード線をステーにクランプする。
- I C.D.Iマグネトリード線はフレームエンジン懸架部の外側を通す。
- J サブタンクホースはインシュロックバンドにてサイドカバーステーにクランプする。バンドの余りはカットすること。(2mm以内)
- K フューエルタンクドレンパイプ、オイルタンクブリーザパイプ、リカバリタンクブリーザパイプはガイドの中を通す。

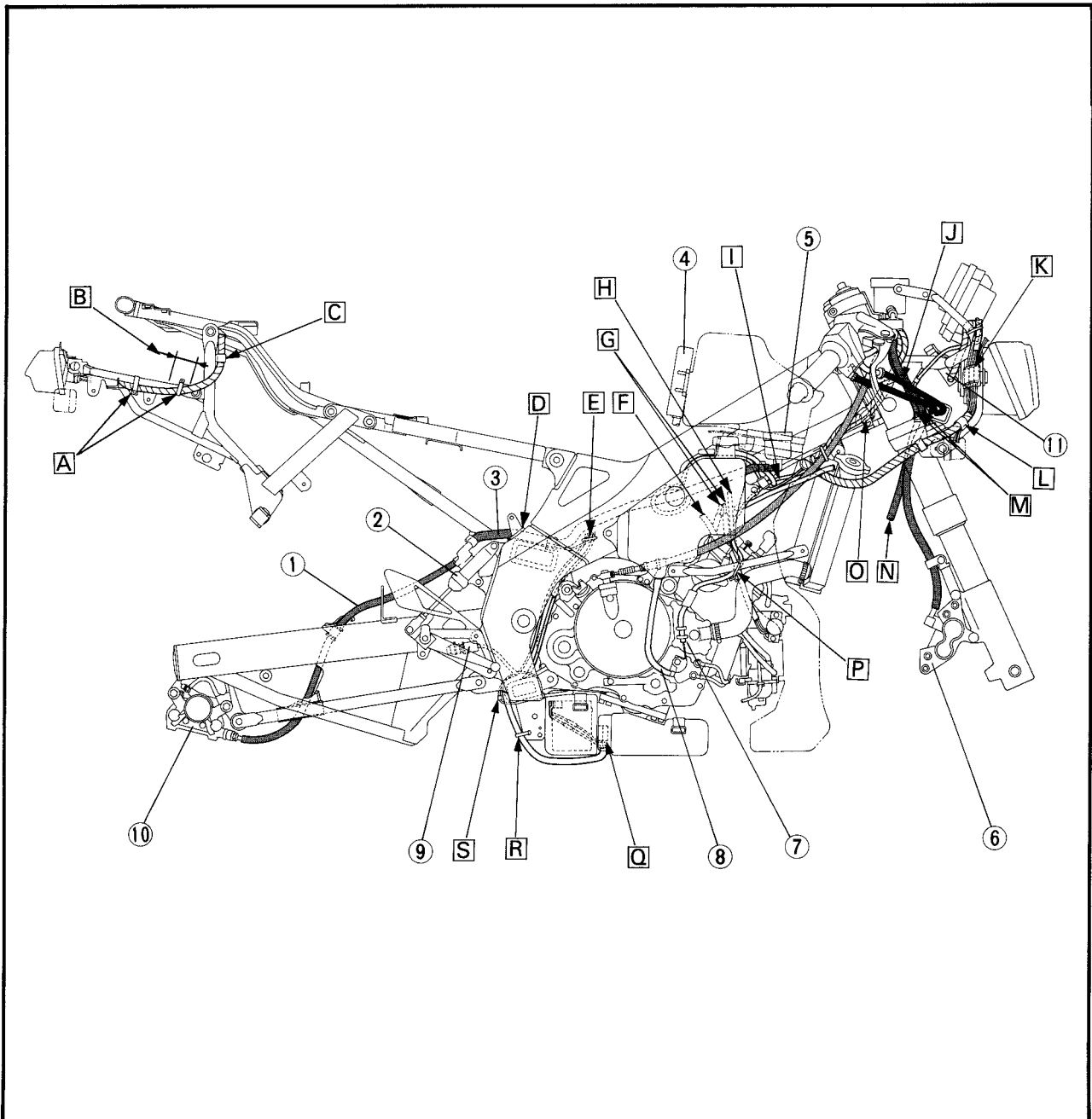
- L キャブレタオーバーフローパイプはサイレンサのクランプとバッテリーボックスのクランプの中を通しカウルの穴より外へ出す。
- M エアクリーナドレンパイプはバッテリーボックス突起部に差し込む。
- N キャブレタオーバーフローパイプとエアクリーナドレンパイプをクランプに通す。
- O スピードメータケーブルはガイドワイヤを通す。
- P ラジエタと共締め、締付時は回り止めをフレームに密着させること。

2



ケーブル、ワイヤ、パイプ通し図

- ① ブレーキホース
 - ② マスタシリンダ
 - ③ リザーブホース
 - ④ コントロールユニット
 - ⑤ リザーブタンク
 - ⑥ フロントブレーキキャリパ右
 - ⑦ ポンプケーブル
 - ⑧ オイルパイプ
 - ⑨ リヤストップスイッチ
 - ⑩ リヤブレーキキャリパ
 - ⑪ C.D.Iユニット
- A インシュロックバンドで固定する。バンドの余りはカットすること。(2mm以内)
 - B パイプつぶし部にてクランプすること。
 - C 溶接クランプに通す。クランプは、ハーネスを通した後、曲げること。
 - D リザーブホースはインシュロックバンドにてサイドカバーステーに固定する。クランプ部は下方に目立たぬように。バンドの余りはカットすること。(2mm以内)
 - E ガイドに通す。
 - F C.D.Iユニットへ。
 - G Y.P.V.Sモータへ。
 - H オイルタンクシリンダへ。
 - I サーマユニットへ。
 - J ブレーキホースは左右共インシュロックバンドにてインナチューブに固定のこと。バンドの余りはカットすること。(2mm以内)
 - K ヘッドメータ部サブリードへ。
 - L コルゲートチューブをクランプで固定する。
 - M ブレーキホース右側を前方にしてホーンステアのクランプにはめ込むこと。
 - N キャリパ左へ。
 - O ハンドルスイッチリード線右をクランプする。
 - P クランプにてスロットルポジションセンサーリード線とオイルポンプケーブルをステーに共締めする。
 - Q リード線側を奥にする。
 - R バッテリリード線をフレームにクランプする。
 - S サイドスタンドスイッチリード線、バッテリーリード線、リヤストップスイッチリード線をフレームクロスパイプにクランプする。
- サイドスタンドスイッチリード線、バッテリーリード線はフレームクロスパイプ後側を通す。クランプはエンジンマウントブラケットの手前、バンドの余りはカットすること。(2mm以内)

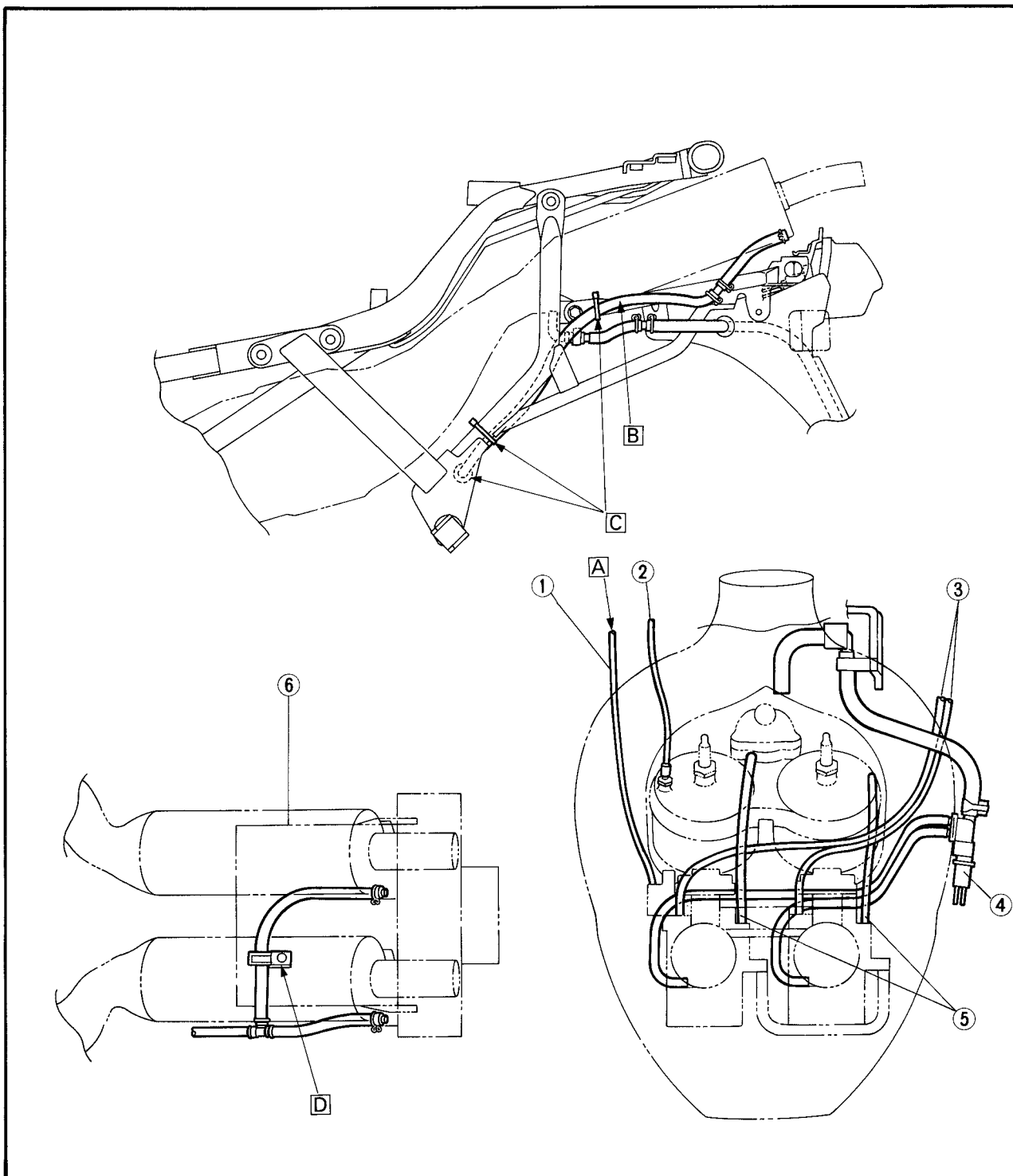




ケーブル、ワイヤ、パイプ通し図

- ① キャブレタスロットルポジションセンサリード線
- ② サーモユニットリード線
- ③ スタータケーブル
- ④ コンベンセータ
- ⑤ 温水パイプ
- ⑥ リヤフェンダ

- A C.D.ユニットへ。
- B マフラドレンパイプはフェンダステーの外側を通す。
- C マフラドレンパイプはリヤフォートレストブラケットにインシュロックバンドで固定し、先端をリヤフォートレストブラケットの穴に差し込む。(バンドを締め上げすぎないこと)
バンドの余りはカットすること。(2mm以内)
- D マフラドレンパイプはクランプに通し、クランプは曲げること。

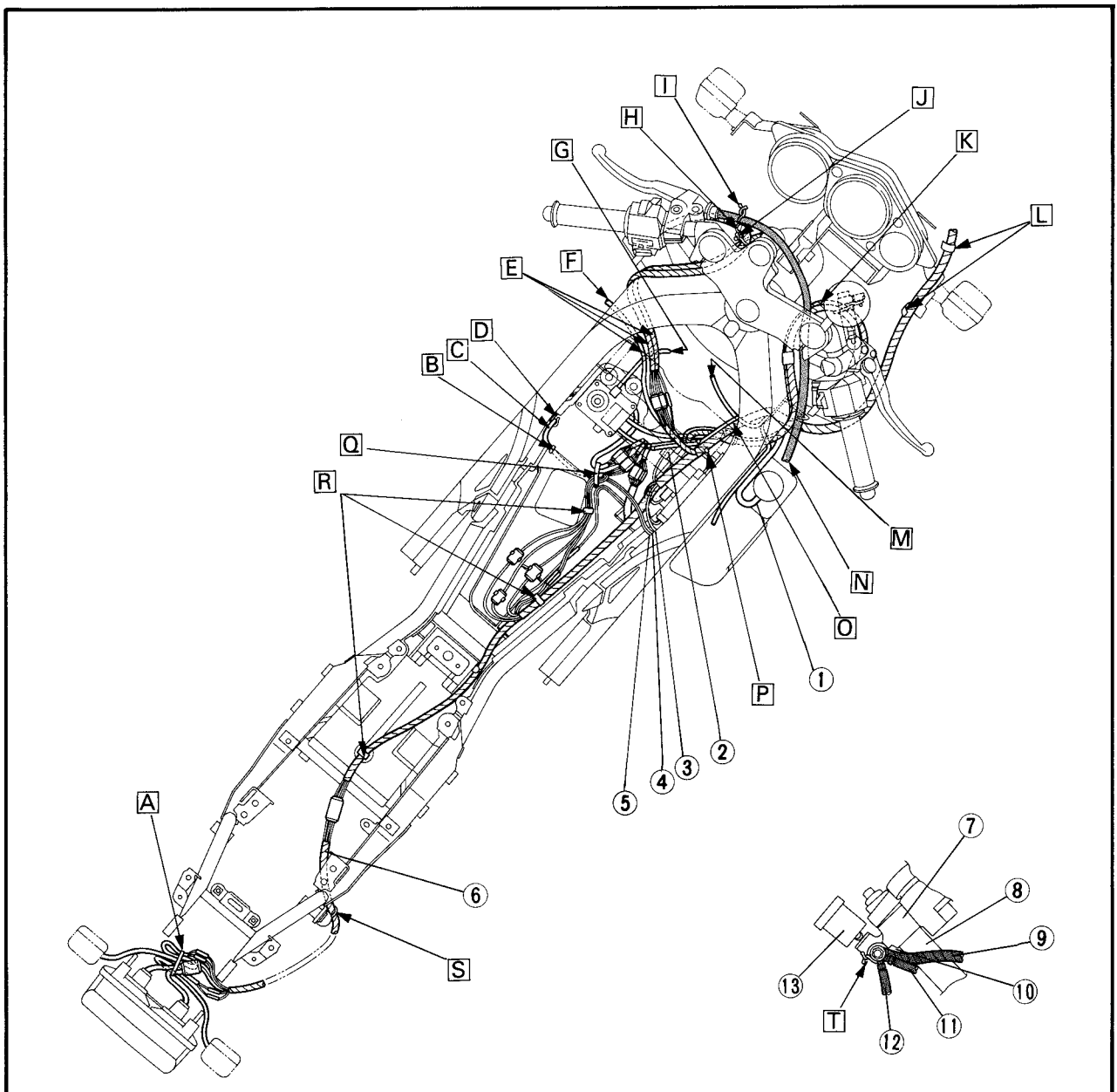


ケーブル、ワイヤ、パイプ通し図

サービス
データ



- ① オイルタンクブリーザパイプ
 - ② フラッシュリレー
 - ③ バッテリリード線
 - ④ サイドスタンドスイッチリード線
 - ⑤ リヤストップスイッチリード線
 - ⑥ サブリード
 - ⑦ ハンドル
 - ⑧ インナチューブ
 - ⑨ ハンドルスイッチリード線右
 - ⑩ フロントストップスイッチリード線
 - ⑪ ブレーキホース左
 - ⑫ ブレーキホース右
 - ⑬ マスタシリンダ
- A テールライトハーネスとリヤフラッシュハーネスはインシュロックにてまとめる。バンドの余りはカットする。(2mm以内)
 - B インシュロックバンドでC.D.Iマグネトリード線をパネル4の穴にクランプする。バンドの余りはカットすること。(2mm以内)
 - C C.D.Iマグネトリード線はパネル4の裏側を通すこと。
 - D クランプに通す。
 - E ハーネス類はスロットルケーブルの上を通すこと。
 - F コンベンセータへ。
 - G オイルリンクへ。
 - H ハンドルスイッチリード線左はインナチューブの内側を通す。
 - I ハンドルスイッチリード線左とクラッチケーブルはクランプで固定する。(クラッチ側を小径とする。)
 - J メインスイッチリード線とハンドルスイッチ左リード線はクランプにて共締めする。
 - K ハンドルスイッチリード線右はインナチューブの内側を通す。
 - L 溶接クランプはメインハーネスを通し曲げること。
 - M サーモユニットへ。サイレンサの後を通す。
 - N クラッチへ。
 - O スロットルポジションセンサへ。ブリッジプレートのクランプをメインハーネスと共に通す。
 - P ハーネスのこの分岐点はこのクランプの後方、メインハーネスとスロットルポジションセンサリード線をブリッジプレートのクランプに入れる。
 - Q インシュロックバンドでC.D.Iマグネトリード線とサイドスタンドスイッチリード線、リヤストップスイッチリード線をパネル4に固定する。バンドの余りはカットすること。(2mm以内)
 - R クランプに通す。
 - S メインハーネスはフレームとマッドガードの間を通す。
 - T ハンドルスイッチリード線右とフロントストップスイッチリード線はフロントブレーキホース左側のジョイント口全部でクランプにて固定する。

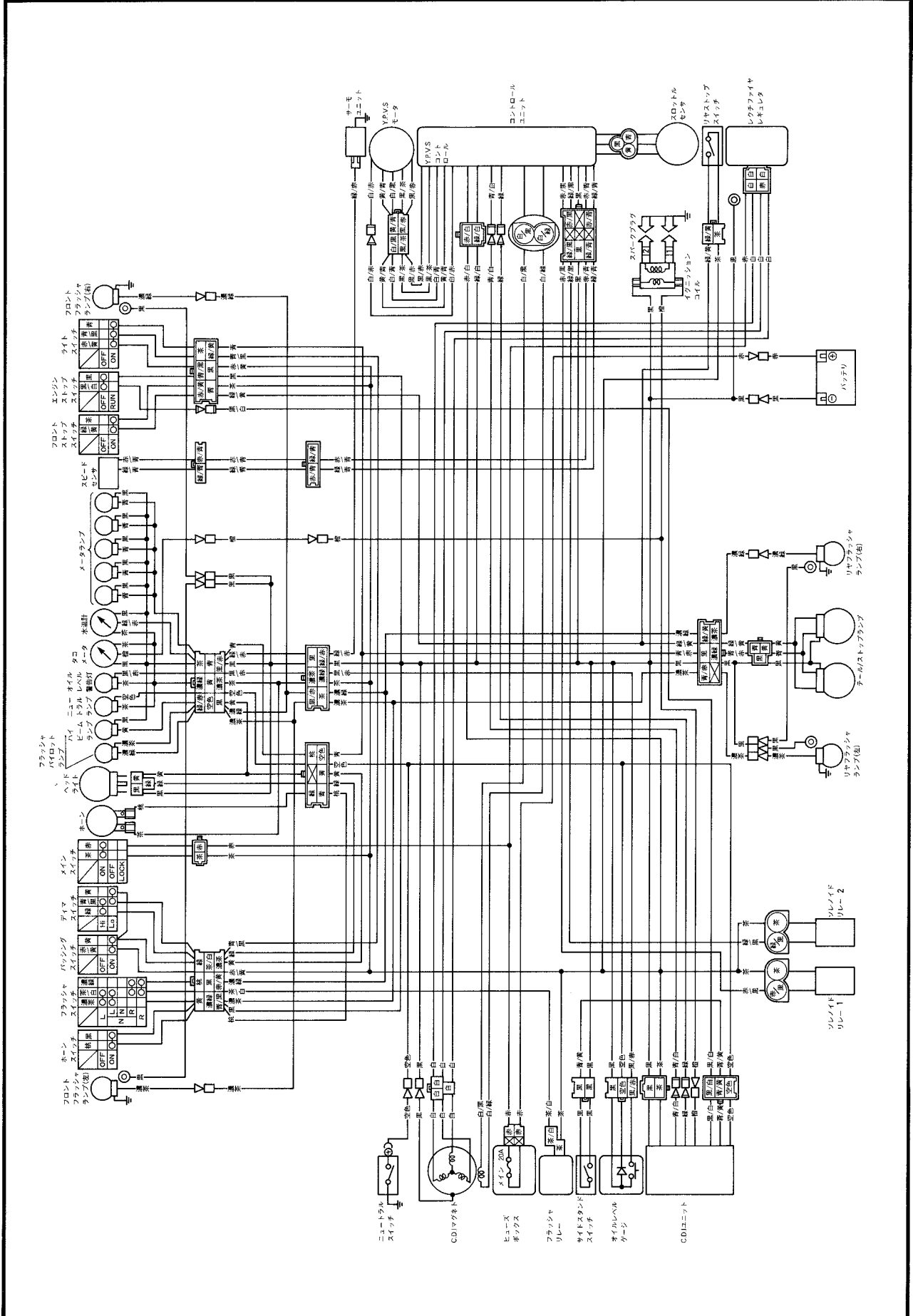


2



電装配線図

2





第 3 章

点検・調整編



点検整備方式

- 注意：1. 運行前点検項目には高速走行点検項目を含みます。
 2. 「●」印は法規で義務づけられている点検時期を示し「○」印はそのほかメーカーで指定する時期を示します。
 3. 「☆」印は、保安部品の定期交換を示します。
 但し、その交換時期は、一般走行する不特定多数の車を対象に定めてあります。従って著しく走行条件の異なる車はこれに準拠して交換してください。

3

点検整備項目		点検整備時期			判定基準	備考
		運行前	又は 10km か 1ヶ月 毎	家用 6 か 月 毎		
か じ 取 り 装 置	遊び、緩み及びがた				●	
	操作具合				●	
	左右の回転角度				●	
	損 傾			●	●	
か じ 取 り ホ ー ク	ホーク・スピンドルの 取付状態	○	●	●		ステアリング ステムを示す
	ホーク・スピンドルの軸 軸受部のがた	○		●		ステアリング ステムを示す
ブ レ ー キ ペ ダ ル	遊び及び踏込んだときの 床板とのすき間		○	●	●	遊びフロント (レバー式) レバー先端2～5mm リヤ(ペダル式)
	踏みしろ及びきき具合	●				
	ブレーキのきき具合			●	●	
ホ ー ス イ 及 び リ ザ ー バ タ ン ク	漏れ、損傷及び取付状態	○	●	●		
	液 量	●	●	●		液面レベル、 LOWERレベ ル以上あること
マ テ リ ヤ の シ ン ク リ ン グ の 損 傷 等 の 有 無 の 点 検	機能、摩耗及び損傷				●	
	ディスクパッドとのすき間				●	
	パッドの摩耗		○	●		標準厚さ 5.5mm 使用限度0.5mm インシテタ
ブ レ ー キ デ ィ ス ク 及 び パ ッ ド	ディスクの摩耗及び損傷				●	標準厚さ 前 5.0mm 後 5.0mm 使用限度 前 4.5mm 後 4.5mm
	タイヤの空気圧	●	●	●		(単位kg/cm) 前輪 後輪 1名乗車 一般 2.00 2.25 高速 2.00 2.50 2名乗車 一般 2.00 2.50 タイヤ仕様 110/70 R17 140/60 R18 54H 150/50 R18 54H ()はTZR250SP
走 行 ホ イ ー ル 装 置	タイヤの亀裂及び損傷	●	●	●		
	タイヤの溝の深さ及び 異状な摩耗	●	●	●		残溝 前輪 0.8mmまで 後輪 0.8mmまで
	タイヤの金属片、石その他の異物	●	●	●		

点検整備項目		点検整備時期			判定基準	備考	
		運行前	又は 10km か 1ヶ月 毎	家用 6 か 月 毎			12 か 月 毎
走 行 ホ イ ー ル 装 置	ホイール・ナット及び ホイール・ボルトの緩み	○	●	●		フロント・アクスル・ボルトの 締付トルク 1.7～2.2kg・m フロント・アクスルの 締付トルク 5.2～8.2kg・m リヤ・アクスル・ナットの 締付トルク 7.9～12.6kg・m	
	リム、サイド・リング 及び ホイール・ディスクの損傷		○	●		ホイール・リムの歪れ、 リム溝で フロントの溝幅れ 2mm以下 幅幅れ 2mm以下 リヤの溝幅れ 2mm以下 幅幅れ 2mm以下	
	フロント・ホイール・ ベアリングのがた				●		
	リヤ・ホイール・ ベアリングのがた				●		
緩 衝 装 置	シャシばね 損 傷				●	クッション スプリング を示す	
	サスペンション 連結部のがた及び アームの損傷				●		
	シヨック・アブソーバ 油漏れ及び損傷				●		
ク ラ ッ チ 伝 達 装 置	取付部のがた				●		
	ク ラ ッ チ 作 用		○	●	●	遊び レバー先端で10～15mm	
チ ェ ー ン 装 置	油漏れ及び油量		○	●	●	油量 のぞき窓式 H～L間にあること	
	操作機構のがた				●		
	チェーンの緩み		○	●	●	サイドスタンド使用時、 前輪スプロケットの中央 で最大振幅30～40mm	
電 気 装 置	スプロケットの取付状態及び摩耗				●		
	点火プラグの状態		○	●	●	プラグギャップ 0.7～0.8mm	
	点火時期				●	●	無調整式
	断続器の状態				●	●	無接点式
	進角装置(進角機構を含む)の機能				●	●	無調整式

点検整備方式

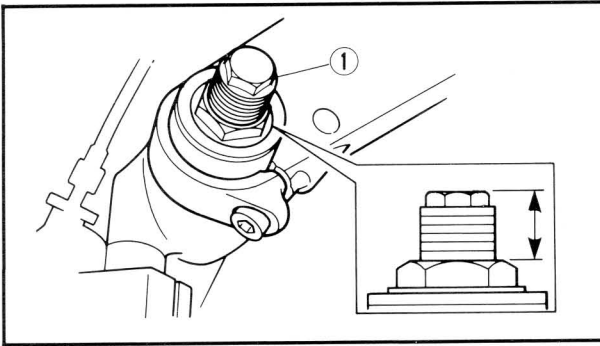
点検調整



点検整備項目		点検整備時期			判定基準	
		運行前	又は 1か月 1000km	自家用 6か月 12か月		
電気装置	バッテリー			●		
	電気配線			●		
本体	かかり具合及び異音		●	●		
	低速及び加速の状態		●	●	アイドリング 回転数1300rpm	
	排気の状態		●	●		
	エア・クリーナ・エレメントの状態		●	●		
潤滑装置	油漏れ	○	●	●		
	油の汚れ及び量		●	●	油量 パイロットランプ式 ランプが点灯していないこと	
	オイルの量	●				
燃料装置	燃料漏れ	○	●	●		
	スロットル・バルブ及び チョーク・バルブの状態			●		
	燃料フィルタの詰まり			●		
	燃料の量	●				
冷却装置	水量	●	●	●	リザーバタンク HI~LOW間にあること	
	水漏れ	●		●		
	ラジエタ・キャップの機能			●	開弁圧 0.75~1.05kg/cm ²	
灯火装置及び方向指示器	作用		●	●		
	点滅具合、汚れ及び損傷	●				

点検整備項目		点検整備時期			判定基準	備考
		運行前	又は 1か月 1000km	自家用 6か月 12か月		
警告装置及び 施錠装置	作用			●		
後写鏡及び 反射鏡	写影の状態	●				後写鏡のみ
反射鏡及び 車窓面番号標 自動	汚れ及び損傷	●				
計器	作用			●		
エト及び ジバマイ イフ スブラ	取付けの緩み及び損傷			●		
	マフラの機能			●		
車体 及び 車体	緩み及び損傷			●		
前日 の 走行 が 認 め	当該箇所に異状がない事 を確認	●				
その他	シャシ各部の給油脂状態			●	●	
制動装置	ブレーキ液の交換					1年毎
	マスタシリンダカップ キット交換					☆2年毎
	キャリバピストンシール キット交換					☆2年毎
動力伝達装置	ブレーキホース					☆4年毎
	クラッチ及び ミッション オイルの交換	○				5000km走行毎
冷却装置	冷却水の交換					2年毎
	冷却水ホースの交換					2年毎
	保安部品 フューエルホースの交換					☆4年毎

3



フロントフォーク初期スプリング荷重の調整

1.以下の調整をする。

- 初期スプリング荷重

アジャスタ①を回わすことにより初期スプリング荷重の調整ができる。

アジャスタ締め込む	スプリング固くなる
アジャスタゆるめる	スプリング柔らかくなる

[TZR250]

標準	アジャスタ上端面より17mmの位置
調整範囲	アジャスタ上端面より10～25mm

[TZR250SP]

標準	アジャスタ上端面より22mmの位置
調整範囲	アジャスタ上端面より10～25mm

要点 アジャスタは左右同位置に合わせる。

フロントフォーク減衰力の調整 [TZR250SPのみ] (ダンピングアジャスタ)

[圧縮側]

1.以下の調整をする。

- 圧縮側減衰力

アジャスタ①を回わすことにより圧縮側減衰力の調整ができる。

アジャスタ締め込む	強くなる
アジャスタゆるめる	弱くなる

標準 軽く一杯に締込み 1 回転戻し

要点 アジャスタは左右同位置に合わせる。

[伸び側]

1.以下の調整をする。

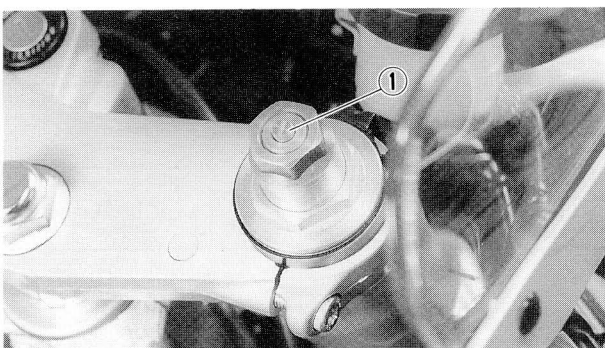
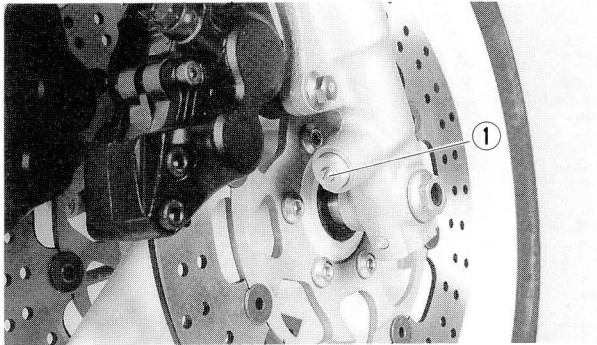
- 伸び側減衰力

アジャスタ①を回わすことにより伸び側減衰力の調整ができる。

アジャスタ締め込む	強くなる
アジャスタゆるめる	弱くなる

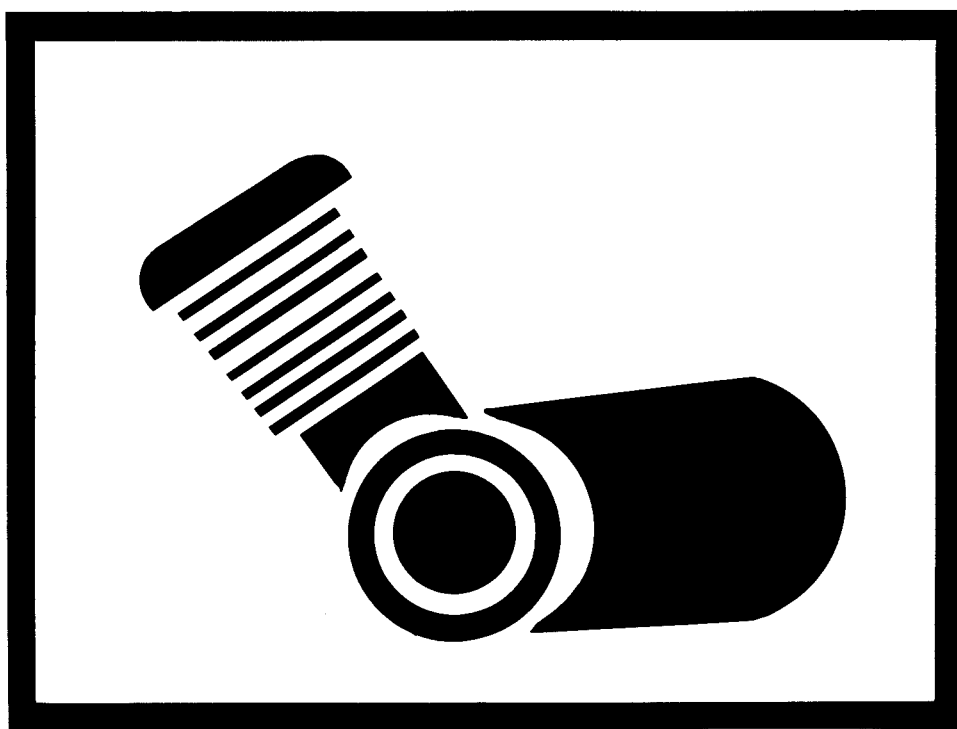
標準 軽く一杯に締込み 1 回転戻し

要点 アジャスタは左右同位置に合わせる。





第4章 エンジン編





クラッチ [TZR250SPのみ]

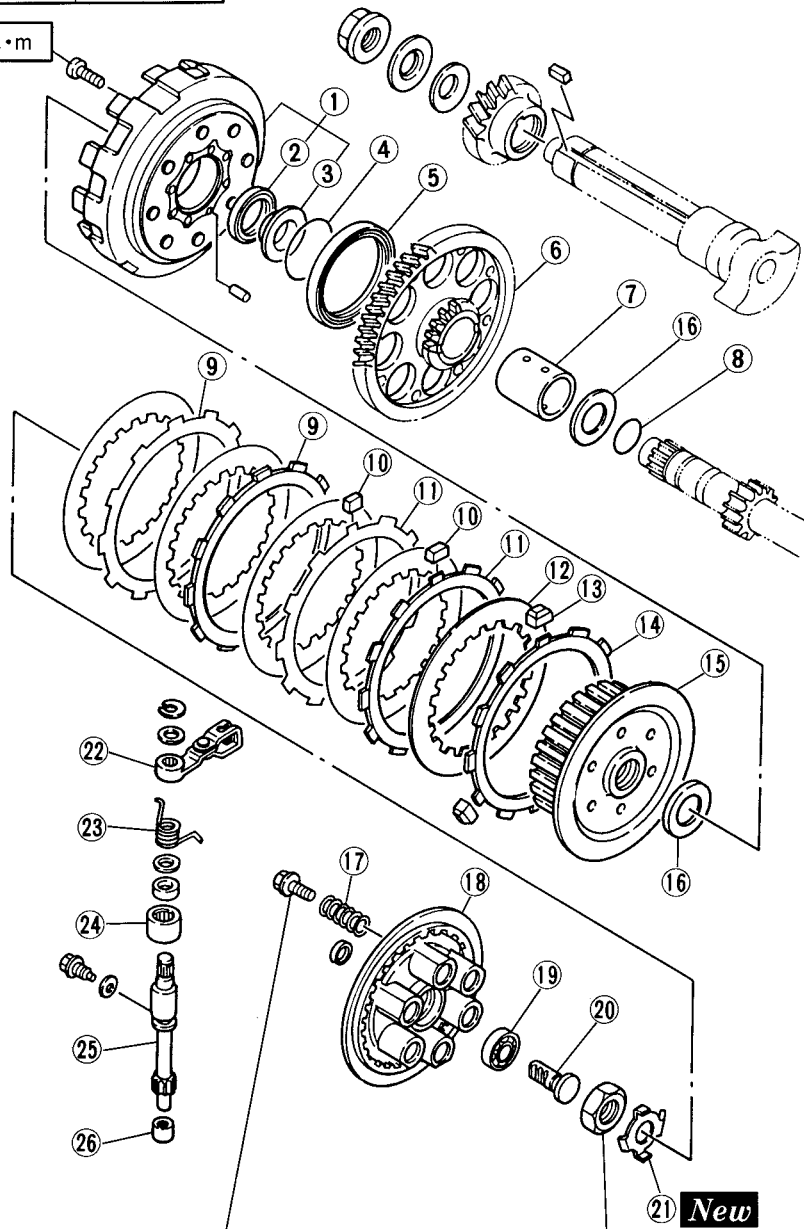
構成部品



- | | | |
|-------------------|-----------------|----------------|
| ① クラッチハウジングAss'y | ⑪ フリクションプレート | ⑳ ロックワッシャ |
| ② オイルシール | ⑫ クラッチプレート1 | ㉑ プッシュレバーAss'y |
| ③ スペーサ2 | ⑬ ダンパ3 | ㉒ トーションスプリング |
| ④ Oリング | ⑭ フリクションプレート | ㉓ ベアリング |
| ⑤ オイルシール | ⑮ クラッチボス | ㉔ プッシュレバーアクスル |
| ⑥ プライマリドリブンギヤComp | ⑯ スラストプレート1 | ㉕ ソリッドブッシュ |
| ⑦ スペーサ1 | ⑰ コンプレッションスプリング | |
| ⑧ Oリング | ⑱ プレッシュプレート1 | |
| ⑨ フリクションプレート | ⑲ ベアリング | |
| ⑩ ダンパ2 | ⑳ ブッシュロッド1 | |

クラッチプレートの歪み限度	0.05mm
クラッチスプリング使用限度	30.6mm
フリクションプレート 厚 さ 限 度	2.9~3.1mm 2.8mm

締付トルク 1.2kg・m



締付トルク 0.6kg・m

締付トルク 9.0kg・m

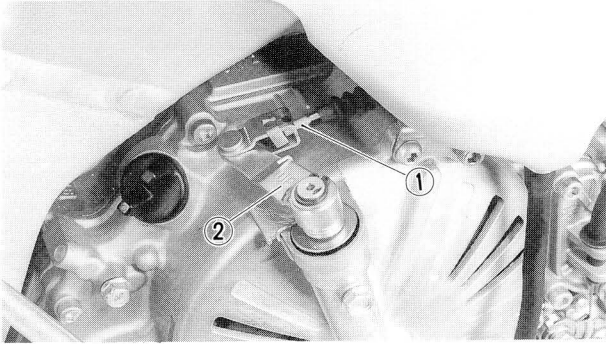
4



クラッチの取外し

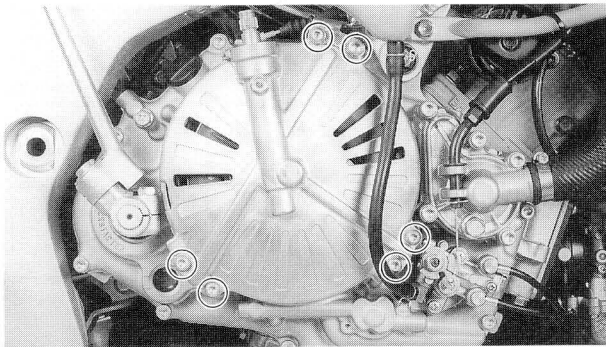
1.以下の部品を取外す。

- アンダカウリング右



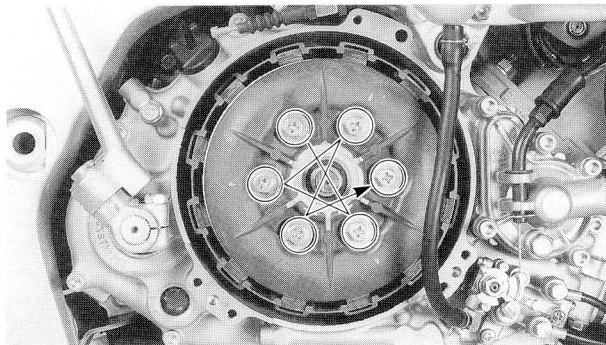
2.以下の部品を取外す。

- クラッチケーブル①
- ブッシュレバー②



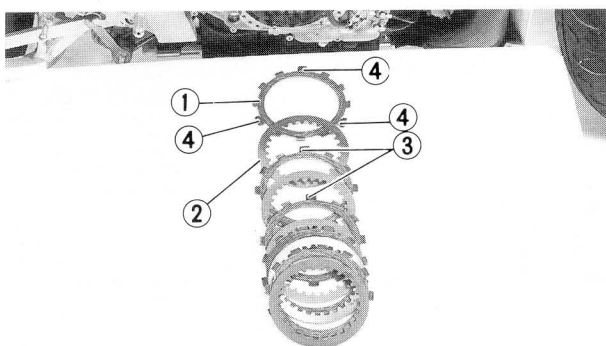
3.以下の部品を取外す。

- カバー 1



4.以下の部品を取外す。

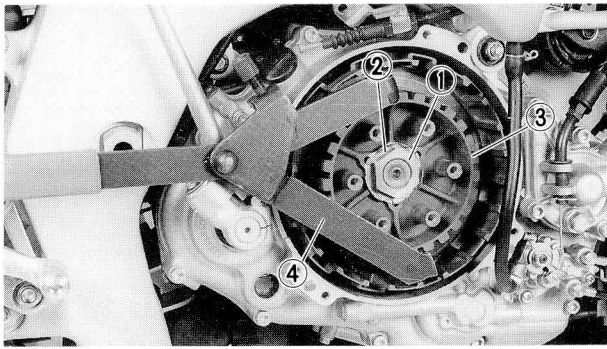
- プレッシャプレート
- クラッチスプリングスクリュを対角線に交互にゆるめて取外す。



5.以下の部品を取外す。

- フリクションプレート①
- クラッチプレート②
- ダンパ 2 ③
- ダンパ 3 ④

要点 組付順序を間違えないために外した順序のままそろえておく。



6.以下の部品を取外す。

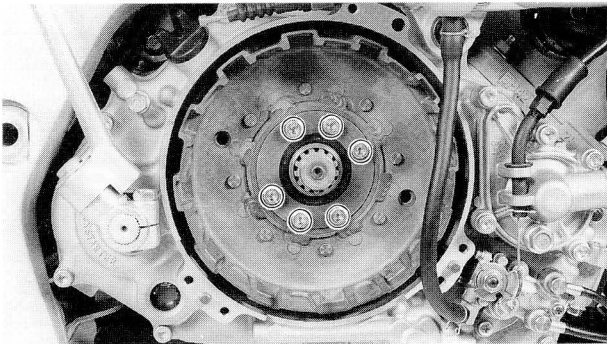
- ナット①
- ロックワッシャ②
- クラッチボス③

ロックワッシャの曲げを起こし、クラッチホルダ④を使用してナットを取外す。



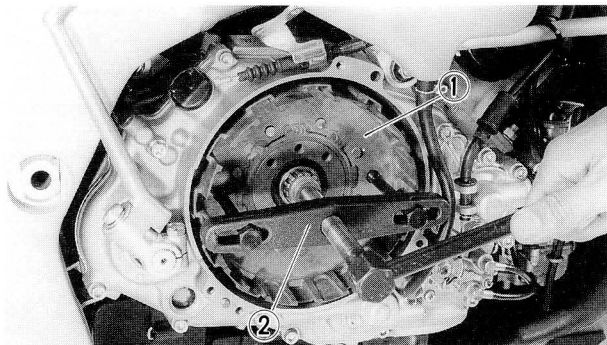
クラッチホルダ

90890-04086



7.以下の部品を取外す。

- ボルト



8.以下の部品を取外す。

- クラッチハウジング①

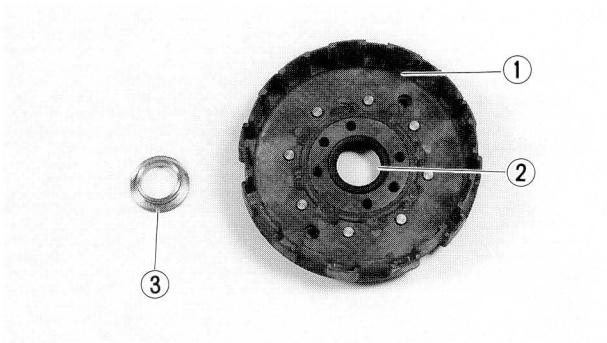
クランクケースセパレーティングツール②を使用して取外す。



クランクケースセパレーティングツール

90890-01135

4



クラッチの点検

1.以下の点検をする。

- クラッチハウジング①
- オイルシール②
- スペーサ③

摩耗、損傷、破損→交換

クラッチの組付け

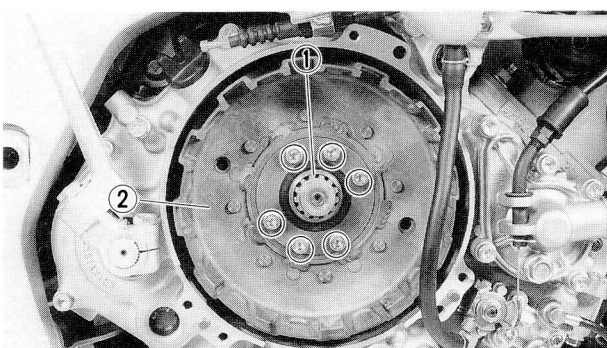
1.以下の部品を組付ける。

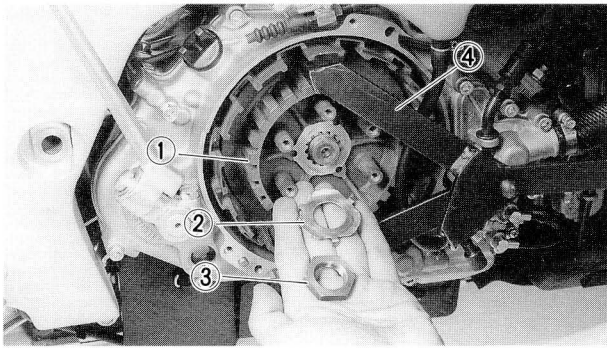
- スペーサ①
- クラッチハウジング②



クラッチハウジング

1.2kg・m




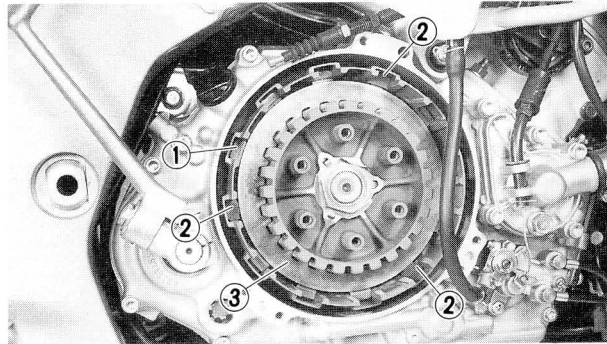


2.以下の部品を組付ける。

- クラッチボス①
- ロックワッシャ②
- ナット③

クラッチホルダ④でクラッチボスを固定してナットを締付ける。

New	ロックワッシャ
	クラッチボス 9.0kg・m

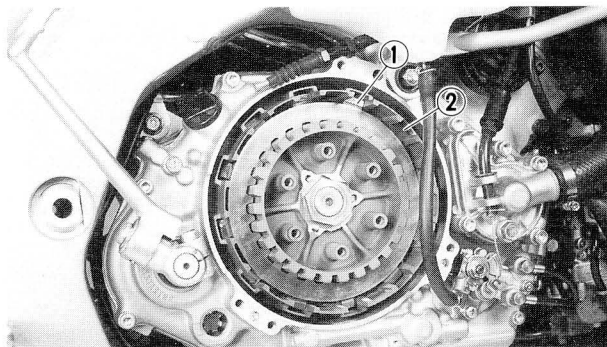
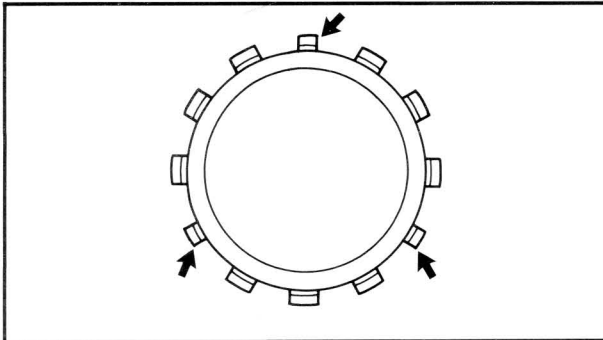


3.以下の部品を組付ける。

要点 フリクションプレート、クラッチプレートにはオイルを付着させないこと。

- フリクションプレート①
- ダンパ3②
- クラッチプレート③

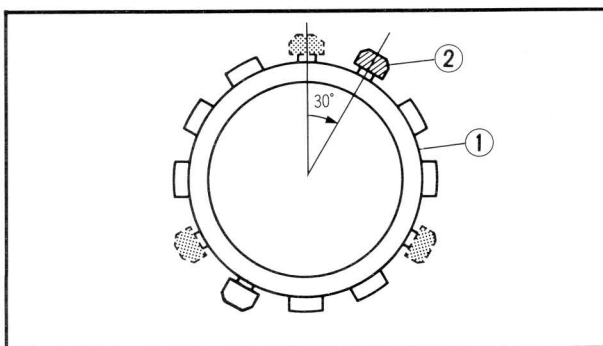
フリクションプレートの爪部の巾の狭いところ(3か所)にダンパ3を組付けクラッチハウジングに組付ける。

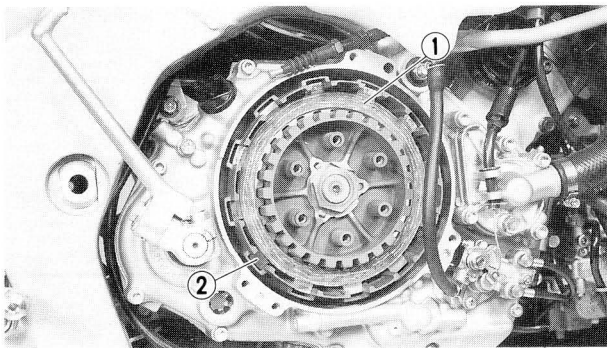


4.以下の部品を組付ける。

- フリクションプレート①
- ダンパ2②

フリクションプレートの爪部の巾の狭いところ(1か所)にダンパ2を組付け、1枚目のフリクションプレートよりひと山(30°)ずらしてクラッチハウジングに組付ける。

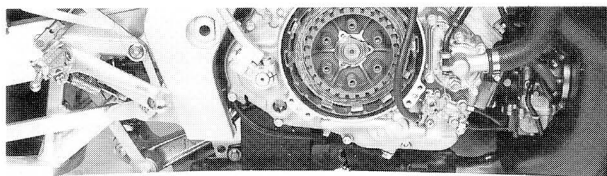
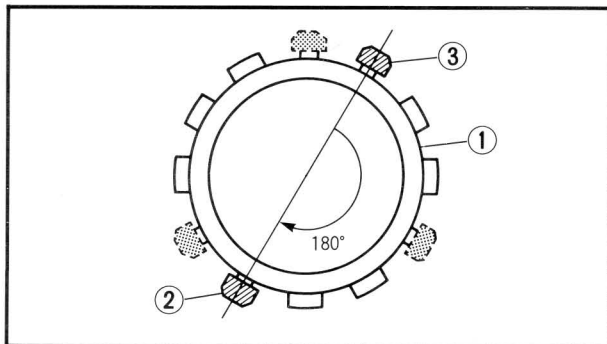




5.以下の部品を組付ける。

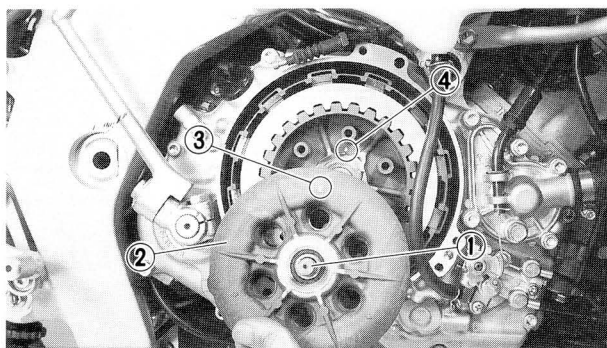
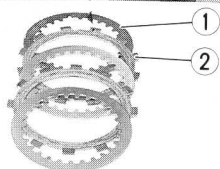
- クラッチプレート
- フリクションプレート①
- ダンパ2②

フリクションプレートの爪部の巾の狭いところ(1か所)にダンパ2を組付け2枚目のフリクションプレート③より180°ずらしてクラッチハウジングに組付ける。



6.以下の部品を組付ける。

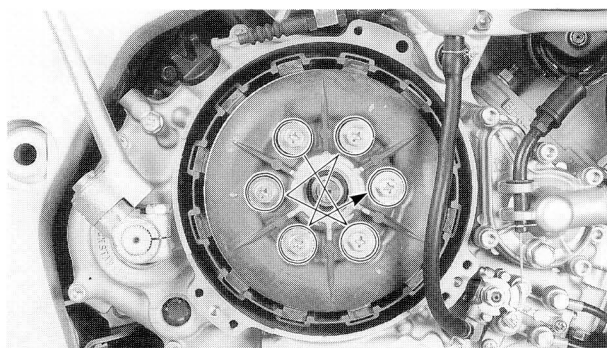
- クラッチプレート(3枚)①
- フリクションプレート(2枚)②



7.以下の部品を組付ける。

- プッシュロッド1①
- プレッシャプレート②

プレッシャプレートの矢印マークをクラッチボスの矢印マーク④に合わせて組付ける。



8.以下の部品を締付ける。

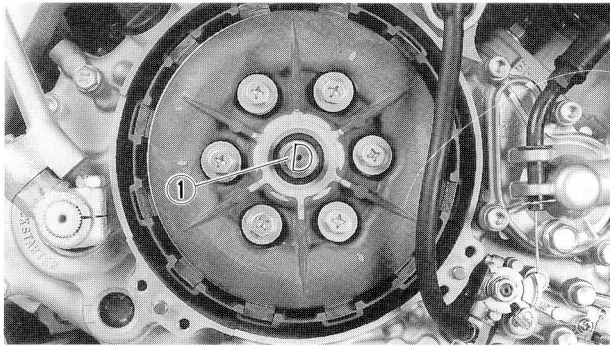
- プレッシャプレート

2～3回に分けて対角線上に締付ける。

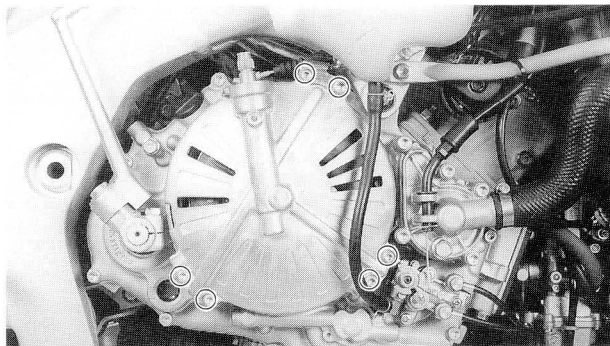


プレッシャプレート

0.6kg・m



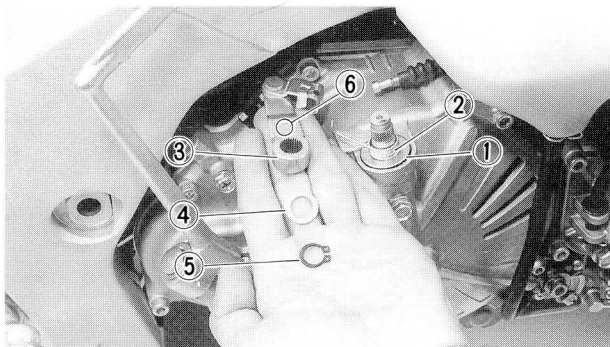
9. プッシュロッド1 ①の切り欠き部を図の位置に向ける。



10. 以下の部品を組付ける。

- カバー

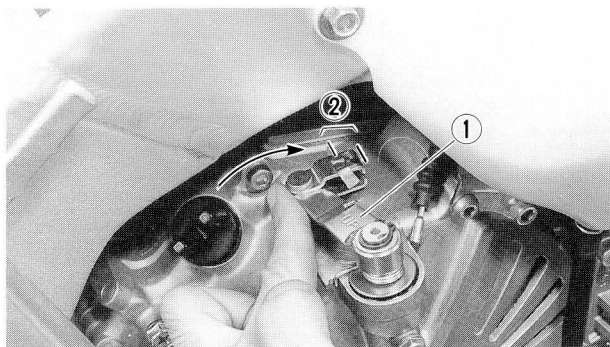
	カバー
	1.0kg・m



11. 以下の部品を組付ける。

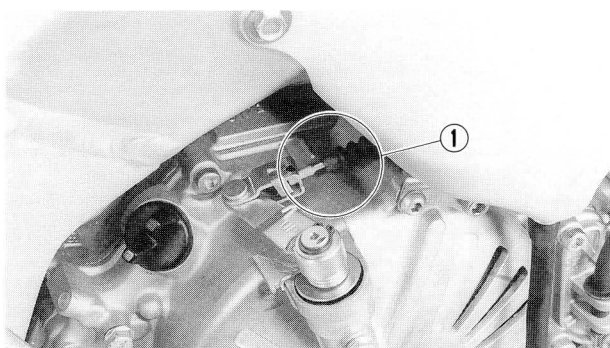
- プレートワッシャ①
- トーションスプリング②
- プッシュレバー③
- プレーンワッシャ④
- サークリップ⑤

プッシュレバーのUPマーク⑥を上に向けて組付ける。



12. 以下の点検をする。

- プッシュレバー①を矢印方向に押し、クラッチケースカバーの合わせマーク②範囲にプッシュレバー先端が入るか点検する。
入らない→プッシュレバーを組付け直す。



13. 以下の部品を組付ける。

- クラッチケーブル①

14. 以下の部品を組付ける。

- アンダカウリング右

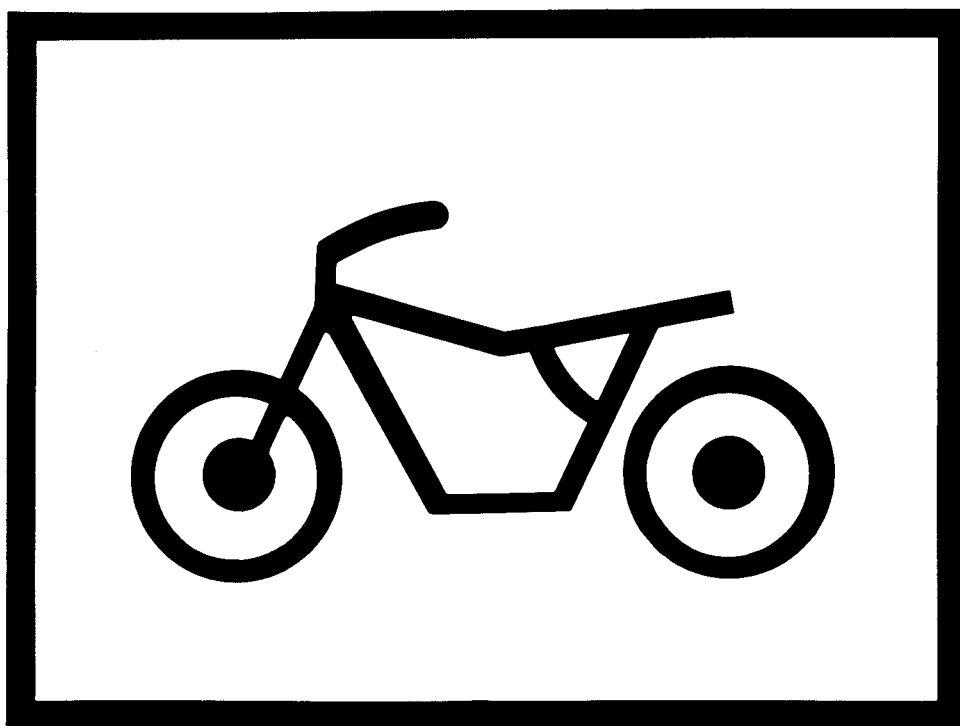
15. 以下の点検をする。

- クラッチレバー先端部の遊び量
- クラッチの作用



4

第5章 車体編





構成部品

- ①フロントフォーク左Ass'y
- ②キャップボルトAss'y
- ③オイルシールケース
- ④アウトチューブ
- ⑤カラー
- ⑥スプリングシート
- ⑦フォークスプリング
- ⑧シリンダComp
- ⑨スライドメタル
- ⑩オイルシールワッシャ
- ⑪オイルシール
- ⑫スナップリング
- ⑬ダストシール
- ⑭インナチューブ
- ⑮フロントフォーク右Ass'y

	TZR250	TZR250SP
フロントフォークスプリング使用限度	297mm	314mm
フロントフォークオイル量	326cm ³	329cm ³
指 定 オ イ ル	ヤマハサスペンション オイルG10	←
オイルレベル(最圧時)	190mm	180mm

締付トルク 2.5kg・m

締付トルク 2.0kg・m

締付トルク 3.5kg・m

TZR250SPのみ

New
New

TZR250SPのみ

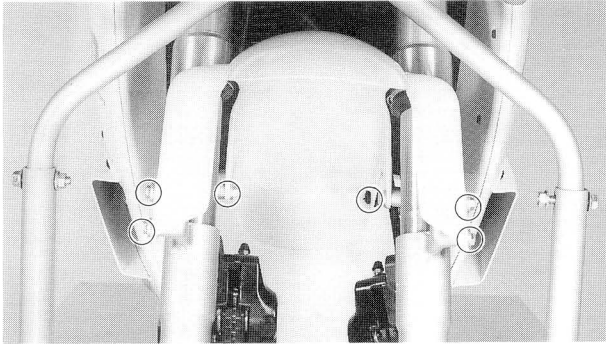
5



フロントフォークの取外し [TZR250]

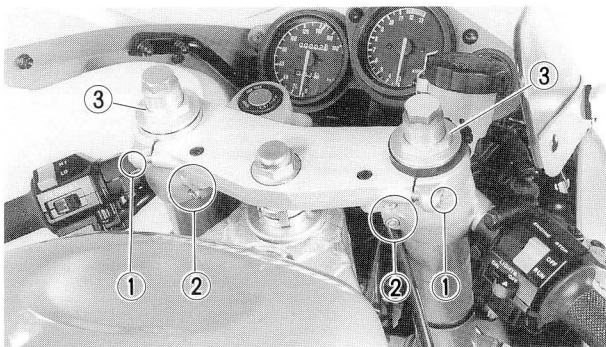
1.以下の部品を取外す。

- フロントホイール
- キャリパ



2.以下の部品を取外す。

- フロントフェンダ

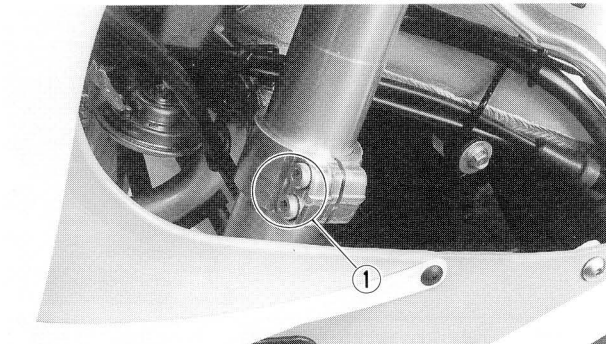


3.以下の部品をゆるめる。

- ハンドルクラウン部アウトチューブ締付ボルト①
- ハンドル締付ボルト②
- キャップボルト③

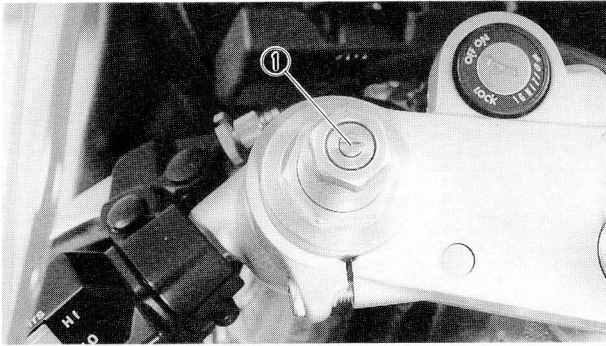
4.以下の部品をゆるめる。

- アンダブラケット部アウトチューブ締付ボルト①



5.以下の部品を取外す。

- フロントフォーク右
 - フロントフォーク左
- フロントフォークを左右に回しながら下へ抜く。



フロントフォークの取外し [TZR250SP]

1. TZR250フロントフォークの取外し1,2参照
2. 伸び側ダンピングアジャスタ①を軽く一杯に締込む。

要点

- アジャスタを強く一杯に締込まないこと。
フロントフォーク組付け後に正確な減衰特性が得られない。
- アジャスタをゆるめる前のセット位置を記録しておく。

3. TZR250フロントフォークの取外し3~5参照

フロントフォークの分解

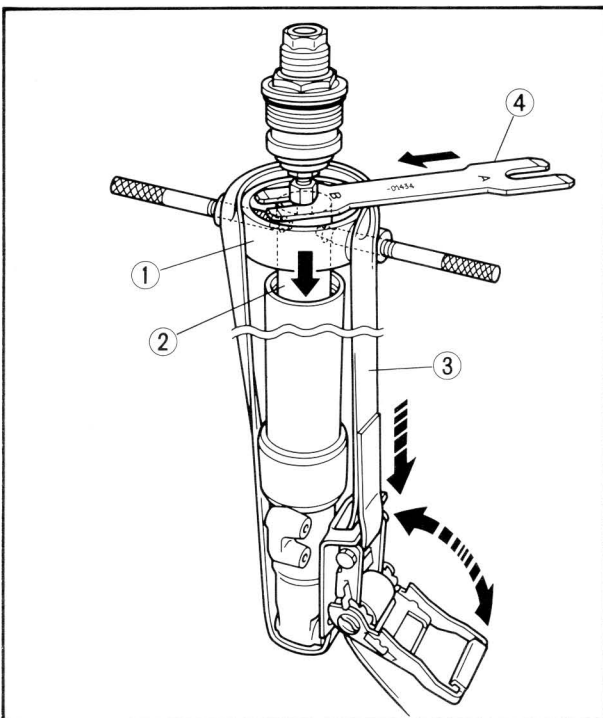
1. 以下の部品を取外す。
 - ・ キャップボルト
アウタチューブより取外す。

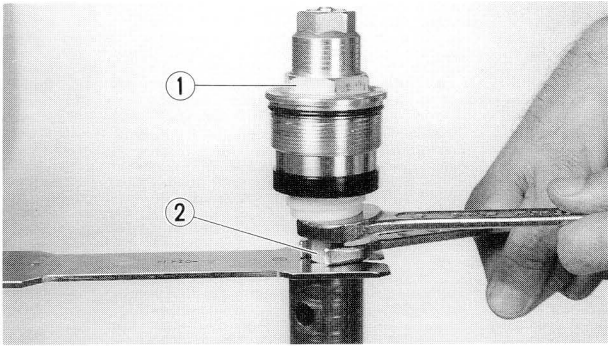
2. 特殊工具をセットする。

- ・ フォークスプリングコンプレッサ①
カラー②にフォークスプリングコンプレッサをセットしタイヤベルトトラッシング(ヤマハ推奨品)③を使用してフォークスプリングを圧縮してカラーとロックナットの間にはロードホルダ④をセットする。

	フォークスプリングコンプレッサ	90890-01441
	ロードホルダ	90890-01434

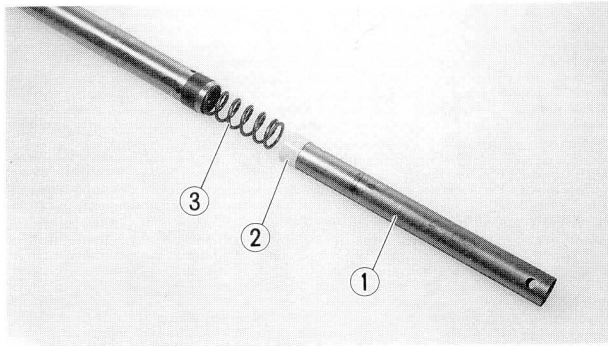
▲注意 タイヤベルトトラッシングを取りはずす時、十分注意すること。





3.以下の部品を取外す。

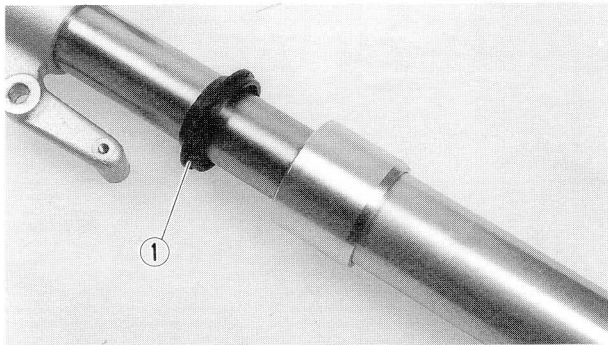
- キャップボルト①
ロックナット②をゆるめ、キャップボルトを取外す。



4.フォークオイルを抜く。

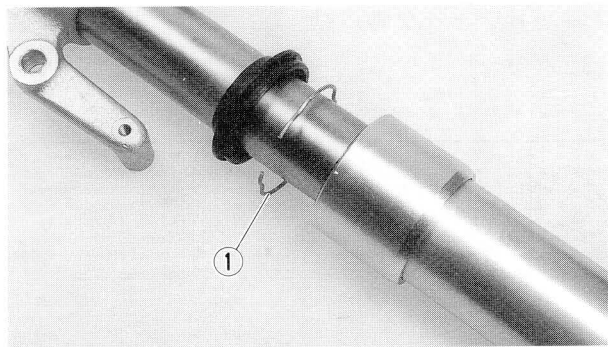
5.以下の部品を取外す。

- カラー①
- スプリングシート②
- フォークスプリング③



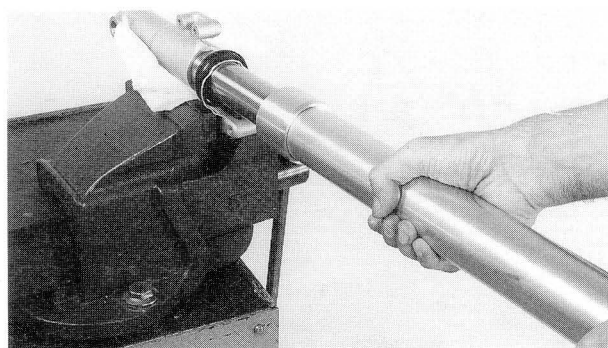
6.以下の部品を取外す。

- ダストシール①
細い⊖ドライバ等を使用して取外す。



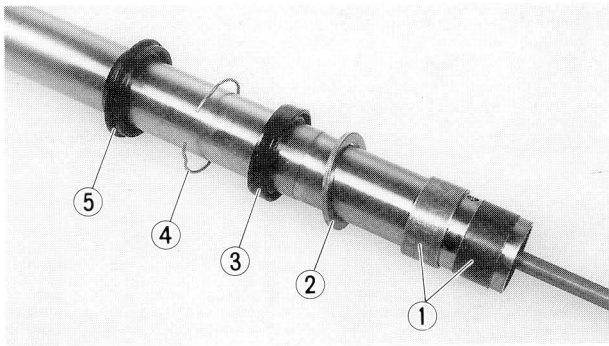
7.以下の部品を取外す。

- オイルシールストップリング①
細い⊖ドライバ等を使用して取外す。



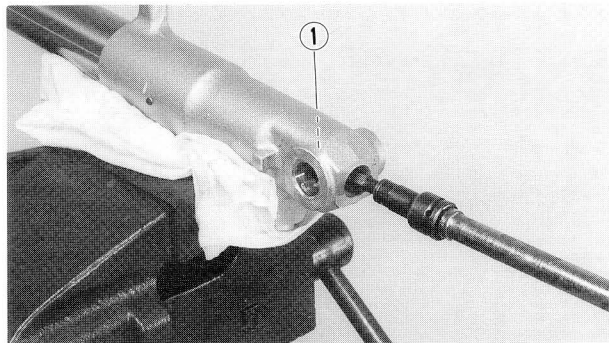
8.以下の部品を取外す。

- オイルシール
アウトチューブを2～3回に分けてスライドさせ、オイルシールに衝撃をあたえて取外す。



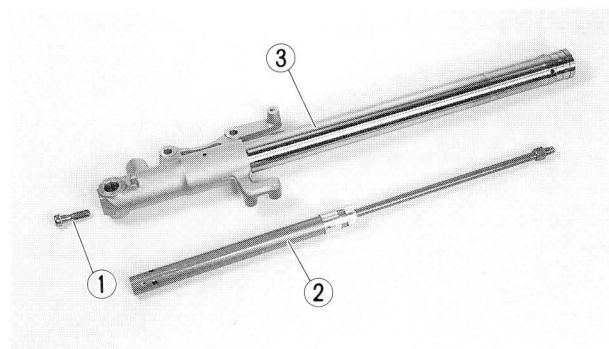
9.以下の部品を取外す。

- スライドメタル①
- オイルシールワッシャ②
- オイルシール③
- オイルシールストップリング④
- ダストシール⑤

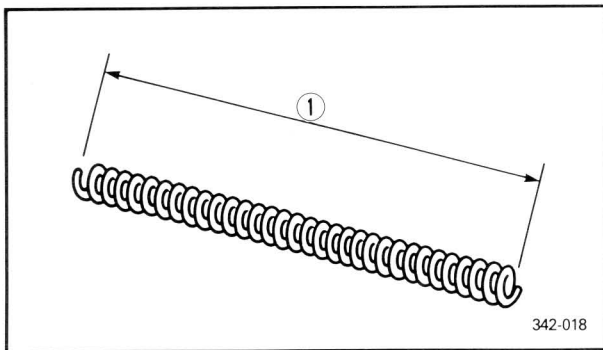


10.以下の部品を取外す。

- ボルト①
- シリンダComp②
- インナチューブ③より取外す。



5



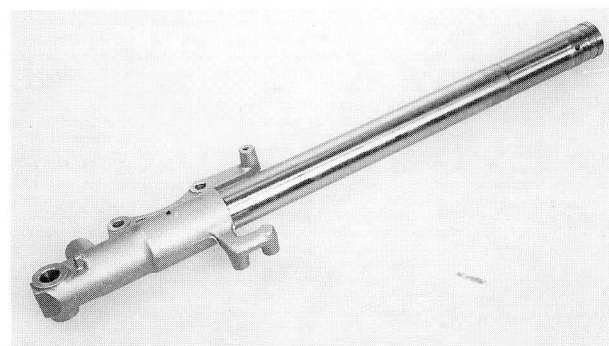
フロントフォークの点検

1.以下の点検をする。

- フロントフォークスプリング自由長①

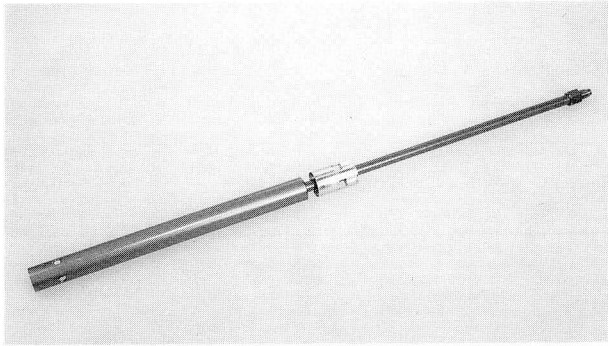
		自由長	使用限度
	TZR250	301.9mm	297mm
	TZR250SP	318.9mm	314mm

使用限度以下→交換



2.以下の点検をする。

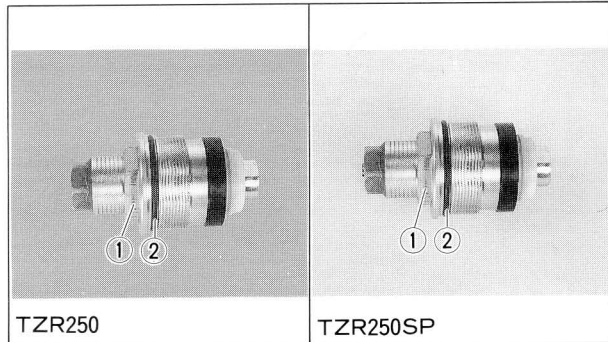
- インナチューブ
損傷、打痕→交換



3.以下の点検をする。

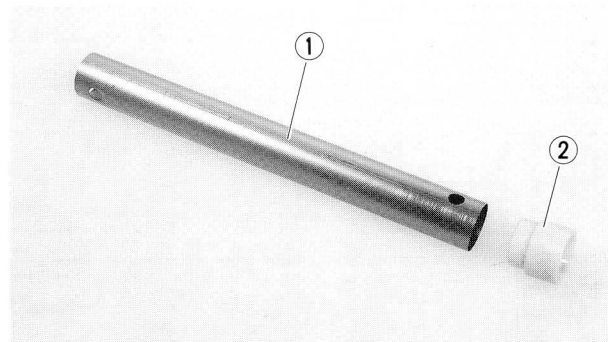
- シリンダComp
曲り、損傷→シリンダComp交換

要 点 ピストンロッド内蔵式フロントフォークは、ピストンロッド内部が精密に出来ており、特に異物に関しては敏感です。オイル交換、フロントフォーク分解、組立時に異物混入が無いように十分注意しておこなうこと。



4.以下の点検をする。

- キャップボルト①
- Oリング②
損傷、変形→交換



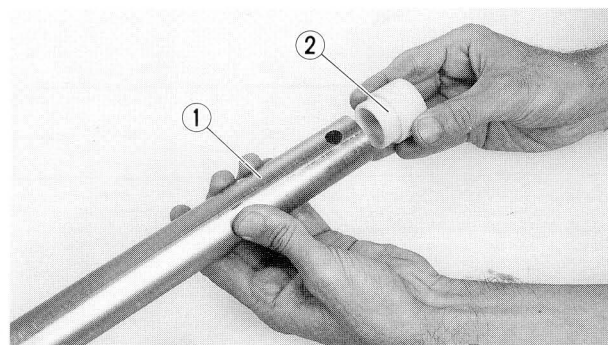
5.以下の点検をする。

- カラー①
- スプリングシート②
破損、変形→交換



6.以下の点検をする。

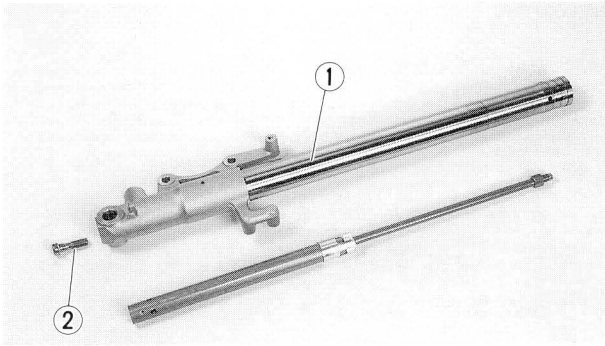
- アウタチューブ
損傷→交換



フロントフォークの組立て

1.以下の部品を組付ける。

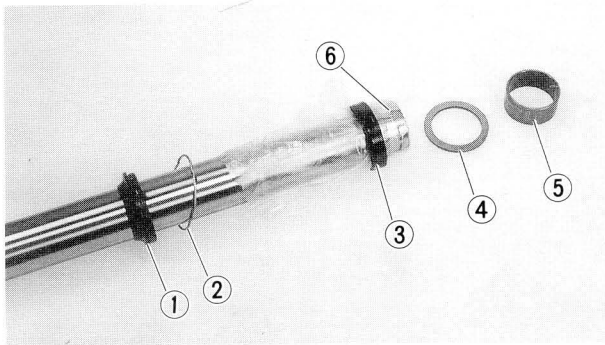
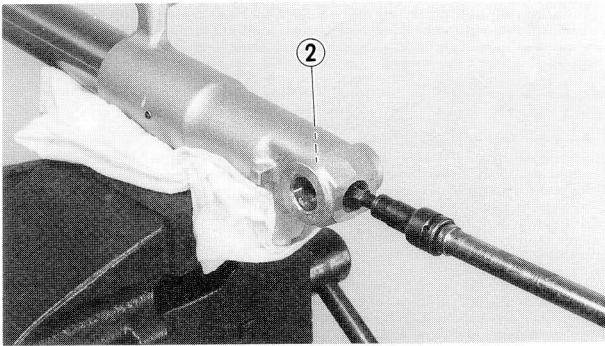
- カラー①
- スプリングシート②



2.以下の部品を組付ける。

- シリンダComp①
- ボルト②

	シリンダComp
	3.5kg・m



3.以下の部品を組付ける。

- ダストシール①
- オイルシールストップリング②
- オイルシール③
- オイルシールワッシャ④
- スライドメタル⑤

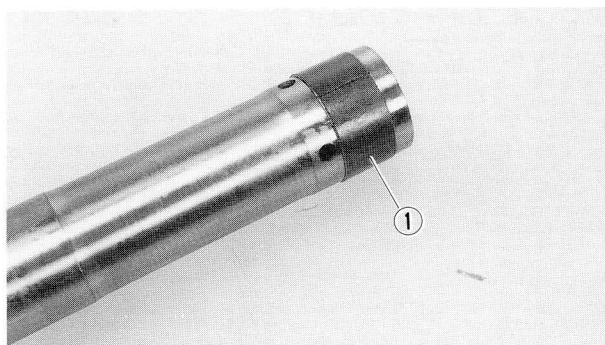
New	オイルシール
	スライドメタル

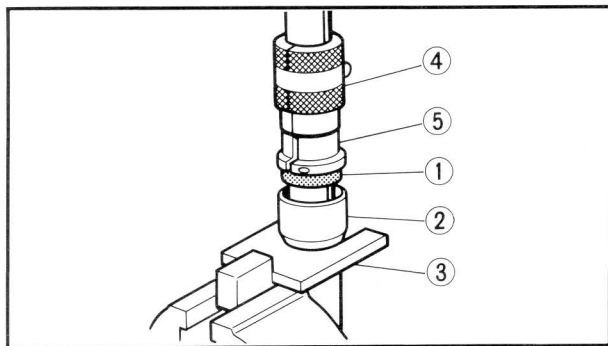
注意 オイルシール組付け時、オイルシール③を傷つけないように、インナチューブにオイルを塗布したビニール⑥を組付け、取付けること。

4.以下の部品を組付ける。

- スライドメタル①

New	スライドメタル
------------	---------

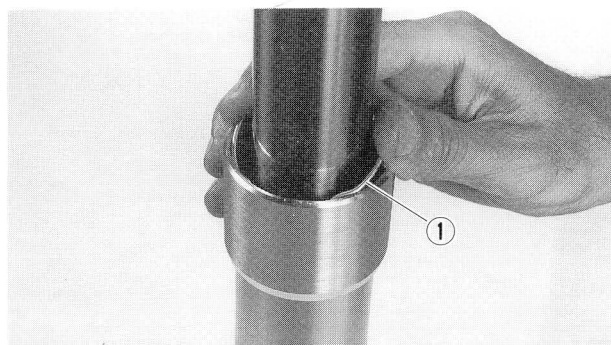




5.以下の部品を組付ける。

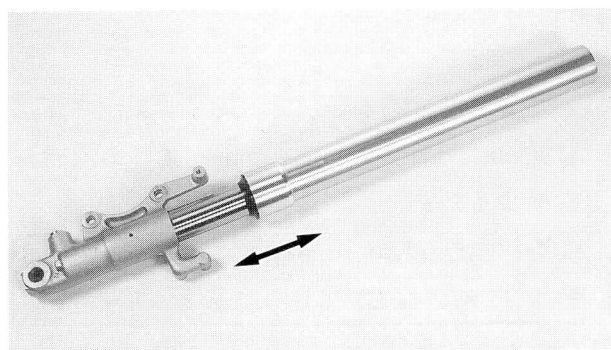
- オイルシール①
アウタチューブ②をフォークホルダ③で固定し、オイルシールドライバ④、フォークシールドライバアタッチメント⑤を使用し、オイルシールストッパリング溝が見えるまでオイルシールを打込む。

	フォークホルダ	90890-01439
	オイルシールドライバ	90890-01424
	フォークシールドライバアタッチメント	90890-01440



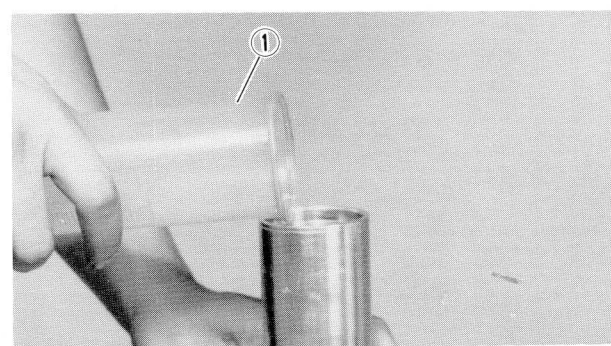
6.以下の部品を組付ける。

- オイルシールストッパリング①
- ダストシール



7.以下の点検をする。

- インナチューブの摺動
スムーズに摺動しないもの→分解し再点検

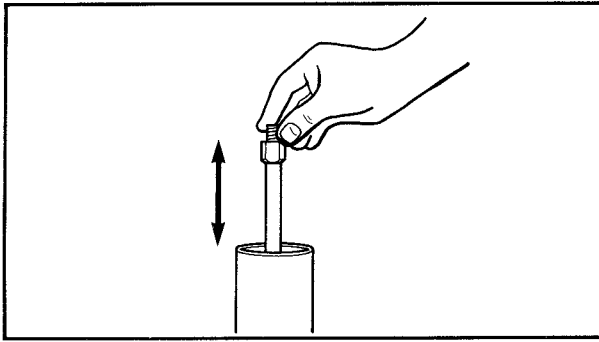


8.フロントフォークを最圧状態にし、サスペンションオイル①をアウタチューブ上端まで注入する。

	注 入 オイル	ヤマハサスペンションオイル G10
--	------------	----------------------

注 意

- オイルは指定オイルを必ず使用すること。
- オイル量は、最終的には油面を測定し、確認すること。



9.ピストンロッドを10回以上ゆっくり上下させる。

[TZR250SPのみ]

要点 急激に上下させるとピストンロッドよりオイルが噴き出るので必ずゆっくり上下させること。

10.シリンダ内に完全にオイルがまわった後、再度サスペンションオイルをアウトチューブ上端まで注入する。

11.注入後、アウトチューブを150mm程上下にゆっくり動かし、オイル中のエアを抜く。

12.この状態で気泡が出なくなるまで放置する。

注意 フォークオイルをアウトチューブ上端まで注入しないと各部へオイルがまわらず正確なバネ特性が得られないため、必ずフォークオイルをアウトチューブ上端まで注入し、エア抜きを行うこと。

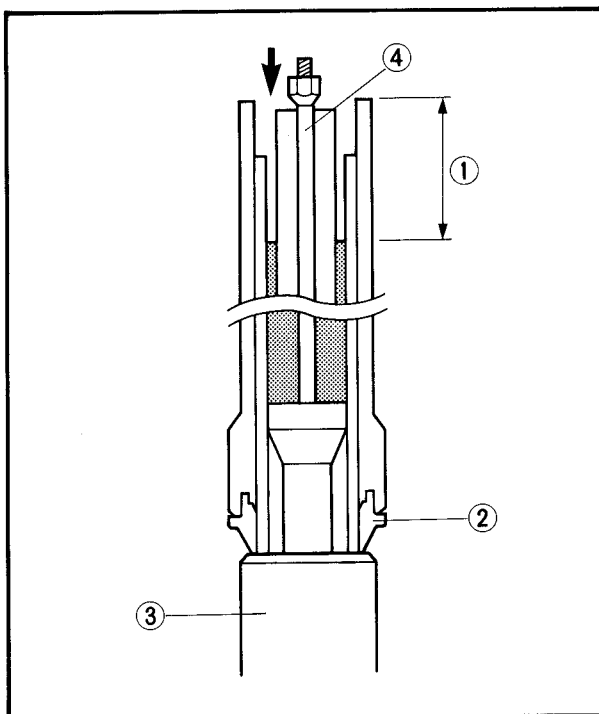
13.以下の点検をする。

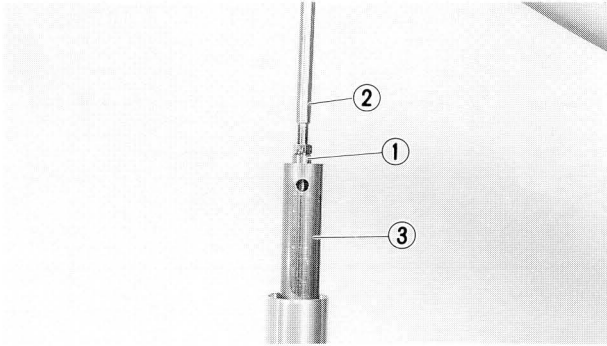
•油面①

ダストシール②をアクスルホルダ③に付けた状態にし、アウトチューブ上端よりの油面を点検する。

	TZR250	油面190mm(オイル量326cm ³)
	TZR250SP	油面180mm(オイル量329cm ³)


注意 ピストンロッド④を沈めた状態で油面を測定すること。





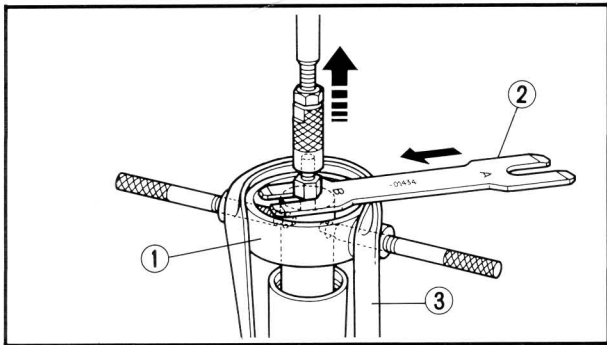
14. 特殊工具をロッドにセットする。

- ロッドプーラアタッチメント①
- ロッドプーラ②

	ロッドプーラアタッチメント(M10)	90890-01436
	ロッドプーラ	90890-01437

15. 以下の部品を組付ける。

- フォークスプリング
- スプリングシート
- カラー③



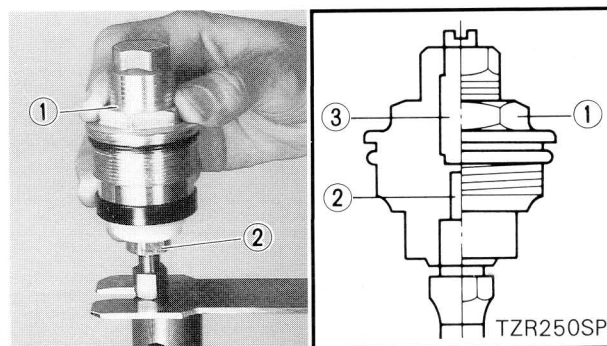
16. 以下の特殊工具をセットする。

- フォークスプリングコンプレッサ①
- ロッドホルダ②

スプリングコンプレッサをカラーに組付け、タイヤベルトトラッキング③でフォークスプリングを圧縮しロックナットとカラーの間にロッドホルダを組付ける。

17. 以下の特殊工具を取外す。

- ロッドプーラ
- ロッドプーラアタッチメント

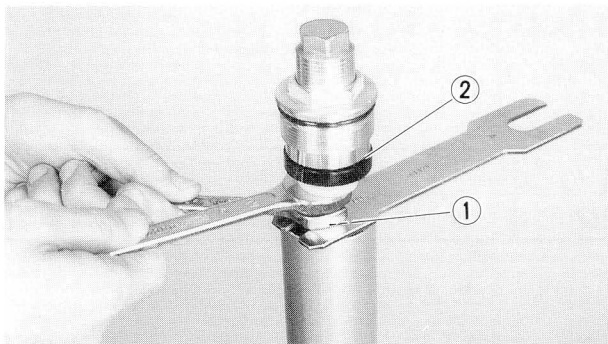


18. 以下の部品を組付ける。

- キャップボルト①
- ピストンロッド②の先端に当たるまでキャップボルトを組付ける。

[TZR250SP]

ピストンロッド②先端が伸び側ダンピングアジャスタ③先端に当たるまでキャップボルトをピストンロッドに締込む。



19.以下の部品を締付ける。

- ナット①
キャップボルト②を固定してナットを締付ける。



ナット
2.5kg・m

20.以下の工具を取外す。

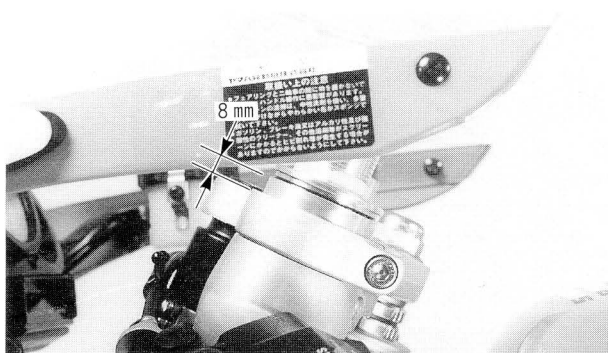
▲注意 ロッドホルダを外し、ゆっくりタイヤベルトラッシングをゆるめること。

- ロッドホルダ
- フォークスプリングコンプレッサ



21.キャップボルトをアウトチューブに仮組付けする。

5



フロントフォークの組付け

1.以下の部品を組付ける。

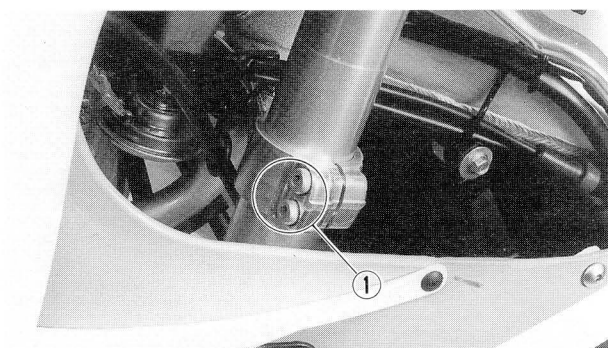
- フロントフォーク
アウトチューブをハンドルクラウン上端部より約8mm上に引き上げ、ハンドルクラウン部アウトチューブ締付ボルトを仮締付けする。

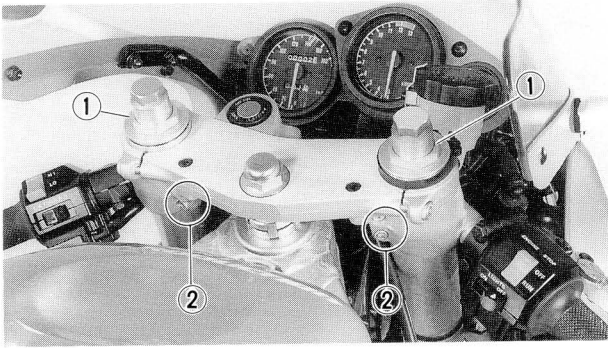
2.以下の部品を締付ける。

- アンダブラケット部アウトチューブ締付ボルト①



アンダブラケット部アウトチューブ締付
2.5kg・m





3.以下の部品を締付ける。

- キャップボルト①
- ハンドルクラウン部アウトチューブ締付ボルト②

	キャップボルト締付	3.5kg・m
	ハンドルクラウン部アウトチューブ締付	1.8kg・m

4.以下の部品を締付ける。

- ハンドル
- フロントフェンダ

	ハンドルとアウトチューブ	0.9kg・m
	ハンドルとハンドルクラウン	0.9kg・m
	フロントフェンダ	0.9kg・m

5.フロントホイールを組付ける。

[TZR250SPのみ]

6.ダンピングアジャスタ(伸側)を標準の位置に合わせる。(P3-3参照)

TZR250.SP サービスマニュアル

1990年12月発行

不許複製

編集発行 ヤマハ発動機株式会社
サービス部・資料課

ヤマハ発動機株式会社

3MA-28197-07



注文No.391168

9012-3.6×1 TS